

学校コード

注3

設置年度

令和

3年度

計画の区分： 学部の設置

注1

認可

注2

東京国際大学 医療健康学部

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人東京国際大学
令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名

学務部

職名・氏名

スギヤマ キイチ
杉山 喜一

電話番号

049-277-5880

(夜間)

070-1001-8262

e-mail

gakuji@tiu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

医療健康学部

＜理学療法学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	17
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	34

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人東京国際大学

(2) 大 学 名 東京国際大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒350-1197
埼玉県川越市の場北 1-13-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(クラタ ノブヤス) 倉田 信靖 (H21. 9)		
学 長	(シオザワ シュウヘイ) 塩澤 修平 (H31. 4)	(アサノ ヨシハル) 浅野 善治 (R4. 4)	任期満了に伴う変更。令和4年4月1日 (4)
学 部 長	(タカイ シンロウ) 高井 信朗 (R3. 4)		
学科長等	(フモト マサキ) 麓 正樹 (R3. 4)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)

令和5年度に報告する内容 → (5)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載 (昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正) するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
医療健康学部 理学療法学科 学士 (理学療法)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	80人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	320人	—	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	80人 (—) [—]	人 (—) [—]	80人 (—) [—]	人 (—) [—]	80人 (—) [—]	人 (—) [—]	0.94倍	— 倍	0.87倍	— 倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	192 (—) [—]	人 (—) [—]	206 (—) [—]	人 (—) [—]	177 (—) [—]	人 (—) [—]					
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	181 (—) [—]	人 (—) [—]	196 (—) [—]	人 (—) [—]	167 (—) [—]	人 (—) [—]					
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	152 (—) [—]	人 (—) [—]	149 (—) [—]	人 (—) [—]	152 (—) [—]	人 (—) [—]					
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	67 (—) [—]	人 (—) [—]	81 (—) [—]	人 (—) [—]	79 (—) [—]	人 (—) [—]					
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	—	—	0.83		1.01		0.98						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
 また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	64 [—] (—)	— [—] (—)	76 [—] (—)	— [—] (—)	79 [—] (—)	— [—] (—)	
2年次			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	60 [—] (—)	— [—] (—)	74 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	57 [—] (—)	— [—] (—)	
4年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	64 [—] (—)	— [—] (—)	136 [—] (—)	— [—] (—)	210 [—] (—)	— [—] (—)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	67 人	3 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	3 人	0 人	自分の学びたい分野が学科の教育内容と合わない(1人)、 除籍(2人)
令和4年度	143 人	7 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	2 人	0 人	学生のモチベーションが低い(1人)、病気療養(1人)
			令和4年度	5 人	0 人	自分の学びたい分野が学科の教育内容と合わない(1人)、勉強 することに興味がもてない(1人)、就職(2人)、その他(1人)
令和5年度	211 人	1 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	1 人	0 人	自分の学びたい分野が学科の教育内容と合わない(1人)
			令和5年度	0 人	0 人	
合 計		11 人		11 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{67} = \boxed{4.47} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{7}{143} = \boxed{4.89} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{211} = \boxed{0.47} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医療健康学部 理学療法学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担			
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
基礎 教育分野	TIUコア 科目		ICT基礎	1前	2								1		
			大学生生活デザイン演習	1前	2								1		
			小計（2科目）	—	4	0	0	0	0	0	0	0	1		
	教 養 コ ア 科 目	人間と文化	生命倫理学	1後	2									1	
			人間関係論	1前	2									1	
			哲学	1前・後	4									1	
			倫理学	1前・後	4									1	
			芸術論	1前・後	4									2	
			文化人類学	1前・後	4									1	
			Introduction to American Society	1後	4									1	
			小計（7科目）	—	4	20	0	0	0	0	0	0	0	7	
		現代社会	法学	1前・後		4									1
			憲法	1前・後		4									1
	社会学		1前・後		4									2	
	現代の社会		1前・後		4									1	
	心理学概論		1前・後		4									1	
	自然 科学 と 環境	小計（5科目）	—	0	20	0	0	0	0	0	0	0	5		
		基礎統計学	1後	2			1		1					1	
		環境と自然	1前・後		4									1	
		情報処理の基礎	1前・後		4									1	
	ス ポ ー ツ	小計（3科目）	—	2	8	0	1	0	1	0	0	0	3		
		健康・スポーツ科学	1前・後		4		1							1	
		健康・スポーツ実技	1前・後		1		1							2	
	英 語	小計（2科目）	—	0	5	0	1	0	0	0	0	0	2		
		Oral Communication	1前	2										3	
		Reading & Writing	1後	2										3	
	言語ス キ	小計（5科目）	—	4	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
		キ ャ リ ア 科 目 形 成 支 援	インターンシップ （体験型）	1後		1								1	
			インターンシップ （実践学修型）	1後		3									1
	ボランティア活動		1前		1									1	
	キャリア・Re-スタート		1後		2									1	
	地域の安全と警察		1後		2									1	
	小計（5科目）		—	0	9	0	0	0	0	0	0	0	2		
	自 由 選 択 科 目	プ ロ ジ エ ク ト 科 目	観光まちおこしワーク ショップ入門	1前・後		2								3	
			観光まちおこしワーク ショップ実践A	1前・後		2									1
			観光まちおこしワーク ショップ実践B	1前・後		2									1
観光まちおこしワーク ショップ実践C			1前・後		2									1	
観光まちおこしプロジェ クトA			2前・後		1									1	
観光まちおこしプロジェ クトB			2前・後		1									1	
観光まちおこしプロジェ クトC			2前・後		1									1	
小計（7科目）			—	0	11	0	0	0	0	0	0	0	4		

【令和5年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
基礎 教育 分野	TIUコア 科目		ICT基礎	1前	2								1	
			大学生生活デザイン演習	1前	2								1	
			小計（2科目）	—	4	0	0	0	0	0	0	0	1	
	人間と文化	生命倫理学	1後	2									1	
		人間関係論	1前	2									1	
		哲学	1前・後	4									1	
		倫理学	1前・後	4									1	
		芸術論	1前・後	4									2	
		文化人類学	1前・後	4									1	
		Introduction to American Society	1後	4									1	
		小計（7科目）	—	4	20	0	0	0	0	0	0	0	7	
		現代社会	法学 (未開講)	1前・後	4									0
			憲法	1前・後	4									1
	社会学		1前・後	4									1	
	現代の社会		1前・後	4									1	
	心理学概論		1前・後	4									1	
	小計（5科目）		—	0	20	0	0	0	0	0	0	0	4	
	自然科学と 環境	基礎統計学	1後	2			1		1				1	
		環境と自然	1前・後	4									1	
		情報処理の基礎	1前・後	4									2	
		小計（3科目）	—	2	8	0	1	0	1	0	0	0	4	
	健康と スポーツ	健康・スポーツ科学	1前・後	4			1						0	
		健康・スポーツ実技	1前・後	1			1						1	
		小計（2科目）	—	0	5	0	1	0	0	0	0	0	1	
	英語 （外国語）	Oral Communication	1前	2									3	
		Reading & Writing	1後	2									2	
		小計（2科目）	—	4	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
	自由 選択 科目	キャリア 科目 形成 支援	インターンシップ （体験型）	1後		1							1	
			インターンシップ （実践学修型）	1後		3							1	
			ボランティア活動	1前		1							1	
			キャリア・Re-スタート	1後		2							1	
			地域の安全と警察	1後		2							1	
			小計（5科目）	—	0	9	0	0	0	0	0	0	2	
		プロジェ クト 科目	観光まちおこしワーク ショップ入門	1前・後		2								3
			観光まちおこしワーク ショップ実践A	1前・後		2								1
			観光まちおこしワーク ショップ実践B	1前・後		2								1
			観光まちおこしワーク ショップ実践C	1前・後		2								1
			観光まちおこしプロジェ クトA	2前・後		1								1
			観光まちおこしプロジェ クトB	2前・後		1								1
			観光まちおこしプロジェ クトC	2前・後		1								1
			小計（7科目）	—	0	11	0	0	0	0	0	0	0	4

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門教育分野	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	運動解剖学	2前	1				1			
		運動学	1後	1				1			
		運動学実習	2前	1			2	2			
		運動生理学	2前	1			1	1			
		解剖学Ⅰ	1前	1		1					
		解剖学Ⅱ	1後	1							
		解剖学Ⅲ	1後	1		1					
		解剖学実習Ⅰ	1前	1		1		1			
		解剖学実習Ⅱ	1後	1		1	1				
		心身機能発達学	1後	1				2			
		生理学Ⅰ	1前	1		1					
		生理学Ⅱ	1後	1		1					
		生理学実習	1後	1		1		1			
		小計(13科目)	—	13	0	0	1	3	5	0	0
	疾 病 と 傷 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	医学一般Ⅰ	2前	1			1				
		医学一般Ⅱ	2後	1		1	1				
		栄養学	2前	1							1
		画像診断学	2前	1			1				
		救急救命医学	3前	1		1	1				
		公衆衛生学	2前	1							1
		疾病予防と健康増進	3前		2	1					
		神経内科学Ⅰ	2前	1			1				
		神経内科学Ⅱ	2後	1			1				
		整形外科Ⅰ	2前	1		1					
		整形外科Ⅱ	2後	1		1					
		精神医学	2前	1			1				
		病理学	2前	1			1				
		薬理学	3前	1							1
		臨床心理学	2後	1			1				
		小計(15科目)	—	14	2	0	2	1	0	0	3
	ビ ジ ネ ス の 理 ハ	健康ビジネス論	4後		2						1
		社会福祉概論	2前	1							1
		地域包括ケアシステム論	3後	1							1
		チーム医療論	3後	1				1			
		リハビリテーション概論	1前	1		1					
		小計(5科目)	—	4	2	0	1	0	1	0	2
	基 礎 理 学 療 法 学	基礎理学療法学	1後	1				1			
		基礎理学療法学演習Ⅰ	1前	1		4	6	6			
		基礎理学療法学演習Ⅱ	1後	1		4	6	6			
		生体観察と触診法	1後	1		1		2			
		理学療法学概論	1前	1		2	5	3			
		理学療法学特論	2後		1	1	2	5			
		理学療法文献講読	3前		2		1				
		理学療法臨床英語	3後	1				1			
		小計(8科目)	—	6	3	0	4	6	6	0	0
	法 理 学 療 法	理学療法管理学	4後	2							
		小計(1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門教育分野	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	運動解剖学	2前	1						1	
		運動学	1後	1							
		運動学実習	2前	1					1		
		運動生理学	2前	1				1	1		
		解剖学Ⅰ	1前	1							
		解剖学Ⅱ	1後	1							
		解剖学Ⅲ	1後	1							
		解剖学実習Ⅰ	1前	1				1			
		解剖学実習Ⅱ	1後	1			1				
		心身機能発達学	1後	1					1		
		生理学Ⅰ	1前	1							
		生理学Ⅱ	1後	1							
		生理学実習	1後	1				1			
		小計(13科目)	—	13	0	0	1	4	3	0	1
	疾 病 と 傷 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	医学一般Ⅰ	2前	1			1	1			
		医学一般Ⅱ	2後	1		1	1				
		栄養学	2前	1							1
		画像診断学	3前	1			1				
		救急救命医学	3前	1		1	1				
		公衆衛生学	2前	1							1
		疾病予防と健康増進	3前		2	1					
		神経内科学Ⅰ	2前	1				1			
		神経内科学Ⅱ	2後	1				1			
		整形外科Ⅰ	2前	1				1			
		整形外科Ⅱ	2後	1							
		精神医学	2前	1				1			
		病理学	2前	1				1			
		薬理学	3前	1							1
		臨床心理学	2後	1				1			
		小計(15科目)	—	14	2	0	2	1	0	0	3
	ビ ジ ネ ス の 理 ハ	健康ビジネス論	4後		2						1
		社会福祉概論	2前	1							1
		地域包括ケアシステム論	3後	1							1
		チーム医療論	3後	1					1		
		リハビリテーション概論	1前	1				1			
		小計(5科目)	—	4	2	0	1	0	1	0	2
	基 礎 理 学 療 法 学	基礎理学療法学	1後	1							
		基礎理学療法学演習Ⅰ	1前	1				4	8	4	
		基礎理学療法学演習Ⅱ	1後	1				4	8	4	
		生体観察と触診法	1後	1				1		1	
		理学療法学概論	1前	1				2	5	3	
		理学療法学特論	2後		1			3	3		
		理学療法文献講読	3前		2			1			
		理学療法臨床英語	3後	1						1	
		小計(8科目)	—	6	3	0	4	8	4	0	0
	法 理 学 療 法	理学療法管理学	4後	2					1		
		小計(1科目)	—	2	0	0	0	1	0	0	0

科目 区分			授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置				兼任・ 兼任		
					必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教		助 手	
専門 教育 分野	専門 科目	理学 療法 評価 学	機能・能力評価学Ⅰ	1後	2			1						
			機能・能力評価学 実習Ⅰ	1後	1			1		1				
			機能・能力評価学Ⅱ	2前	2			1						
			機能・能力評価学 実習Ⅱ	2前	1			2						
			臨床運動分析学演習	2後	2			1						
			小計(5科目)	—	8	0	0	3	0	1	0	0	0	
		理学 療法 治 療 学	ウィメンズヘルス・メンズ ヘルス理学療法	4後	1			1						
			運動器理学療法学Ⅰ	2後	1					1				
			運動器理学療法学 実習Ⅰ	2後	1			1		2				
			運動器理学療法学Ⅱ	3前	1					1				
			運動器理学療法学 実習Ⅱ	3前	1			1		2				
			運動療法学	1後	1				1					
			運動療法学実習	2前	1				2					
			義肢装具学	2後	1					1				
			義肢装具学演習	2後	1				1	1				
			クリニカル・リーズニン グ総論	3後		2			1					
			クリニカル・リーズニン グ各論	4後		2			1					
			障がい者スポーツ 支援論	4後		2					1			
			小児理学療法学	3前	1						1			
			神経・筋疾患理学 療法学	3前	1									
			スポーツトレーニング特 論	4後		2			1					
			スポーツ理学療法学	3前		2			1					
			スポーツ理学療法学 演習	3後		2					1			
			神経理学療法学Ⅰ	2後	1				1					
			神経理学療法学実習Ⅰ	2後	1				1	1				
			神経理学療法学Ⅱ	3前	1					1				
			神経理学療法学実習Ⅱ	3前	1					2				
			疼痛理学療法学	3後	1					1				
			内部機能理学療法学Ⅰ	3前	1					1				
			内部機能理学療法学Ⅱ	3前	1									1
			内部機能理学療法学実 習	3前	1									
			日常生活活動理学 療法学	2後	1					1				
			日常生活活動理学 療法学実習	2後	1					1	1			
			物理療法学	2後	1									
			物理療法学実習	2後	1					1	1			
			理学療法リスクマネジメ ント演習	2後	1					1				
			理学療法学演習Ⅰ	2前	1				4	5	6			
			理学療法学演習Ⅱ	2後	1				3	3	6			
			理学療法学演習Ⅲ	3前	1				3	6	6			
			臨床理学療法論	4後		2			1					
		小計(34科目)	—	27	14	0	4	6	6	0	0	1		
		地域 理 学 療 法 学	介護予防評価演習	3後		2			1	1				
			生活環境支援理学 療法学	3後	1				1					
			地域理学療法学	3前	1					1				
			予防理学療法学総論	3前	1				1					
			予防理学療法各論	4後		2		1						
			小計(5科目)	—	3	4	0	1	2	1	0	0	0	
専門 教育 分野	専門 科目	臨床 実 習	機能・能力評価学臨床 実習	2後	5			4	5	6				
			総合臨床実習Ⅰ	3後	7			4	5	6				
			総合臨床実習Ⅱ	4前	9			4	5	6				
			小計(3科目)	—	21	0	0	4	5	6	0	0	0	
		総合 分 野	総合理学療法学	4後	2			3	7	6				
			理学療法学研究法	3後	1			6	6	6				
理学療法学研究実践法	4通		2			6	6	6						
小計(3科目)	—	5	0	0	6	7	6	0	0	0				
合計(125科目)				—	##	98	0	7	7	6	0	0	32	
卒業要件及び履修方法														
1.基礎教育分野から18単位以上(「TUIコア科目」の必修科目4単位、「人間と文化」の必修科目4単位、「自然科学と環境」の必修科目2単位、「英語」の必修科目4単位、基礎教育分野の選択科目4単位以上)を修得。 2.専門教育分野の専門基礎科目の必修科目31単位を修得。 3.専門教育分野の専門科目の必修科目72単位を修得。 4.専門教育分野の専門基礎科目及び専門科目の選択科目を9単位以上修得。 5.卒業要件単位数である130単位以上修得していることを卒業要件とする。 6.履修上限単位数は各学期20単位と定める。ただし、臨床実習科目や集中講義等の授業期間外に修得する単位はこれに含めない。														

科目 区分			授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任	
					必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 教育 分野	専門 科目	理学 療法 評価 学	機能・能力評価学Ⅰ	1後	2			1						
			機能・能力評価学 実習Ⅰ	1後	1			1		1				
			機能・能力評価学Ⅱ	2前	2			1						
			機能・能力評価学 実習Ⅱ	2前	1			2						
			臨床運動分析学演習	2後	2			1						
			小計(5科目)	—	8	0	0	3	0	1	0	0	0	
		理学 療法 治 療 学	ウィメンズヘルス・メンズ ヘルス理学療法	4後	1			1						
			運動器理学療法学Ⅰ	2後	1					1				
			運動器理学療法学 実習Ⅰ	2後	1			1		2				
			運動器理学療法学Ⅱ	3前	1					1				
			運動器理学療法学 実習Ⅱ	3前	1			1		2				
			運動療法学	1後	1				1					
			運動療法学実習	2前	1				2					
			義肢装具学	2後	1						0			
			義肢装具学演習	2後	1				1		0			
			クリニカル・リーズニン グ総論	3後		2			1					
			クリニカル・リーズニン グ各論	4後		2			1					
			障がい者スポーツ 支援論	4後		2					1			
			小児理学療法学	3前	1						0			1
			神経・筋疾患理学 療法学	3前	1						1			
			スポーツトレーニング特 論	4後		2			1					
			スポーツ理学療法学	3前		2			1					
			スポーツ理学療法学 演習	3後		2					1			
			神経理学療法学Ⅰ	2後	1				1					
			神経理学療法学実習Ⅰ	2後	1			1	1					
			神経理学療法学Ⅱ	3前	1				1					
			神経理学療法学実習Ⅱ	3前	1				2					
			疼痛理学療法学	3後	1				1					
			内部機能理学療法学Ⅰ	3前	1				1					
			内部機能理学療法学Ⅱ	3前	1									1
			内部機能理学療法学実 習	3前	1				1					
			日常生活活動理学 療法学	2後	1					1				
			日常生活活動理学 療法学実習	2後	1					1	1			
			物理療法学	2後	1					1				
			物理療法学実習	2後	1					2				
			理学療法リスクマネジメ ント演習	2後	1					1				
			理学療法学演習Ⅰ	2前	1				4	7	4			
			理学療法学演習Ⅱ	2後	1				3	5	4			
			理学療法学演習Ⅲ	3前	1				3	8	4			
			臨床理学療法論	4後		2			1					
		小計(34科目)	—	27	14	0	4	8	4	0	0	2		
		地域 理 学 療 法 学	介護予防評価演習	3後		2				1	1			
			生活環境支援理学 療法学	3後	1					1				
			地域理学療法学	3前	1						1			
			予防理学療法学総論	3前	1					1				
			予防理学療法各論	4後		2		1						
			小計(5科目)	—	3	4	0	1	2	1	0	0	0	
専門 教育 分野	専門 科目	臨床 実 習	機能・能力評価学臨床 実習	2後	5			4	7	4				
			総合臨床実習Ⅰ	3後	7			4	7	4				
			総合臨床実習Ⅱ	4前	9			4	7	4				
		小計(3科目)	—	21	0	0	4	7	4	0	0	0		
		総合 分 野	総合理学療法学	4後	2			3	8	4				
			理学療法学研究法	3後	1			6	8	4				
理学療法学研究実践法	4通		2			6	8	4						
小計(3科目)	—	5	0	0	6	8	4	0	0	0				
合計(125科目)				—	##	98	0	7	9	4	0	0	33	
卒業要件及び履修方法														
1.基礎教育分野から18単位以上(「TUIコア科目」の必修科目4単位、「人間と文化」の必修科目4単位、「自然科学と環境」の必修科目2単位、「英語」の必修科目4単位、基礎教育分野の選択科目4単位以上)を修得。 2.専門教育分野の専門基礎科目の必修科目31単位を修得。 3.専門教育分野の専門科目の必修科目72単位を修得。 4.専門教育分野の専門基礎科目及び専門科目の選択科目を9単位以上修得。 5.卒業要件単位数である130単位以上修得していることを卒業要件とする。 6.履修上限単位数は各学期20単位と定める。ただし、臨床実習科目や集中講義等の授業期間外に修得する単位はこれに含めない。														

【令和4年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任 兼任担	
				必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
基礎教育分野	TIUコア 科目	ICT基礎	1前	2									1	
		大学生生活デザイン演習	1前	2									1	
		小計（2科目）	—	4	0	0	0	0	0	0	0	1		
	教養コア科目	人間と文化	生命倫理学	1後	2									1
			人間関係論	1前	2									1
			哲学	1前・後		4								1
			倫理学	1前・後		4								1
			芸術論	1前・後		4								2
			文化人類学	1前・後		4								1
			Introduction to American Society	1前		4								1
		小計（7科目）	—	4	20	0	0	0	0	0	0	0	7	
		現代社会	法学	1前・後		4								1
			憲法	1前・後		4								1
	社会学		1前・後		4								2	
	現代の社会 （未開講）		1前・後		4								1	
	心理学概論		1前・後		4								1	
	小計（5科目）	—	0	20	0	0	0	0	0	0	0	5		
	自然環境と 科学	基礎統計学	1後	2			1		1				1	
		環境と自然	1前・後		4								1	
		情報処理の基礎	1前・後		4								2	
	小計（3科目）	—	2	8	0	1	0	1	0	0	0	4		
	スポーツと 健康	健康・スポーツ科学	1前・後		4		1						1	
		健康・スポーツ実技	1前・後		1		1						2	
		小計（2科目）	—	0	5	0	1	0	0	0	0	2		
	英語 （言語スキ ル科目）	Oral Communication	1前	2									2	
		Reading & Writing	1後	2									2	
		小計（2科目）	—	4	0	0	0	0	0	0	0	2		
	自由選択科目	キャリア 科目形成 支援	インターンシップ （体験型）	1後		1								1
			インターンシップ （実践学修型）	1後		3								1
			ボランティア活動	1前		1								1
			キャリア・Re-スタート	1後		2								1
			地域の安全と警察	1後		2								1
			小計（5科目）	—	0	9	0	0	0	0	0	0	2	
プロジェ クト科目		観光まちおこしワーク ショップ入門	1前・後		2								3	
		観光まちおこしワーク ショップ実践A	1前・後		2								1	
		観光まちおこしワーク ショップ実践B	1前・後		2								1	
		観光まちおこしワーク ショップ実践C	1前・後		2								1	
		観光まちおこしプロジェ クトA	2前・後		1								1	
		観光まちおこしプロジェ クトB	2前・後		1								1	
		観光まちおこしプロジェ クトC	2前・後		1								1	
		小計（7科目）	—	0	11	0	0	0	0	0	0	0	4	
		小計（12科目）	—	0	44	0	0	0	0	0	0	0	12	

【令和3年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単 位 数			専任教員等の配置						兼任 ・ 兼担	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
基礎教育分野	TIUコア 科目	ICT基礎	1前	2									1	
		大学生活デザイン演習	1前	2									1	
		小計（2科目）	—	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	教養コア科目	人間と文化	生命倫理学	1後	2									1
			人間関係論	1前	2									1
			哲学	1前・後		4								1
			倫理学	1前・後		4								1
			芸術論	1前・後		4								2
			文化人類学	1前・後		4								1
			Introduction to American Society (未開講)	1後		4								1
			小計（7科目）	—	4	20	0	0	0	0	0	0	0	7
		現代社会	法学	1前		4								1
			憲法	1前・後		4								1
			社会学	1前・後		4								2
			現代の社会	1前・後		4								1
			心理学概論	1前・後		4								1
			小計（5科目）	—	0	20	0	0	0	0	0	0	0	5
	自然 環境 科学 と	基礎統計学	1後	2			1		1				1	
		環境と自然	1前・後		4								1	
		情報処理の基礎	1前・後		4								1	
	ス ポ ー ツ 健康 と	健康・スポーツ科学	1前・後		4		1						1	
		健康・スポーツ実技	1前・後		1		1						2	
		小計（2科目）	—	0	5	0	1	0	0	0	0	0	2	
	英 語 言語ス キ	Oral Communication	1前	2									2	
		Reading & Writing	1後	2									2	
		小計（2科目）	—	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	自由選択科目	キャリア 科目 形成 支援	インターンシップ (体験型)	1後		1								1
			インターンシップ (実践学修型)	1後		3								1
			ボランティア活動	1前		1								1
			キャリア・Re-スタート	1後		2								1
			地域の安全と警察	1後		2								1
			小計（5科目）	—	0	9	0	0	0	0	0	0	0	2
		プロ ジェ ク ト 科目	観光まちおこしワーク ショップ入門	1前・後		2								3
			観光まちおこしワーク ショップ実践A	1前・後		2								1
			観光まちおこしワーク ショップ実践B	1前・後		2								1
			観光まちおこしワーク ショップ実践C	1前・後		2								1
観光まちおこしプロジェ クトA			2前・後		1								1	
観光まちおこしプロジェ クトB			2前・後		1								1	
観光まちおこしプロジェ クトC			2前・後		1								1	
小計（7科目）			—	0	11	0	0	0	0	0	0	0	4	

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門教育分野	専門基礎科目	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	運動解剖学	2前	1				1				
			運動学	1後	1				1				
			運動学実習	2前	1				3	1			
			運動生理学	2前	1				1	1			
			解剖学Ⅰ	1前	1		1						
			解剖学Ⅱ	1後	1		1						
			解剖学Ⅲ	1後	1		1						
			解剖学実習Ⅰ	1前	1		1	1					
			解剖学実習Ⅱ	1後	1		1	1					
			心身機能発達学	1後	1					2			
			生理学Ⅰ	1前	1		1						
			生理学Ⅱ	1後	1		1						
			生理学実習	1後	1		1	1					
		小計(13科目)	—	13	0	0	1	4	4	0	0	0	
		疾 病 と 傷 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	医学一般Ⅰ	2前	1			1	1				
			医学一般Ⅱ	2後	1			1	1				
			栄養学	2前	1							1	
			画像診断学	2後	1				1				
			救急救命医学	3前	1			1	1				
			公衆衛生学	2前	1							1	
			疾病予防と健康増進	3前		2		1					
			神経内科学Ⅰ	2前	1				1				
			神経内科学Ⅱ	2後	1				1				
			整形外科Ⅰ	2前	1		1						
			整形外科Ⅱ	2後	1		1						
			精神医学	2前	1				1				
			病理学	2前	1				1				
			薬理学	3前	1							1	
			臨床心理学	2後	1				1				
	小計(15科目)		—	14	2	0	2	1	0	0	0	3	
	ハ バ リ テ ー シ ョ ン の 理 念	健康ビジネス論	4後		2						1		
		社会福祉概論	2前	1							1		
		地域包括ケアシステム論	3後	1							1		
		チーム医療論	3後	1					1				
		リハビリテーション概論	1前	1			1						
		小計(5科目)	—	4	2	0	1	0	1	0	0	2	
	専門科目	基 礎 理 学 療 法 学	基礎理学療法学	1後	1				1				
			基礎理学療法学演習Ⅰ	1前	1			4	8	5			
			基礎理学療法学演習Ⅱ	1後	1			4	8	5			
			生体観察と触診法	1後	1			1		2			
			理学療法学概論	1前	1			2	5	3			
			理学療法学特論	2後		1		1	3	4			
			理学療法文献講読	3前		2							
			理学療法臨床英語	3後	1					1			
			小計(8科目)	—	6	3	0	4	8	5	0	0	0
			理学療法管理学	4後	2				1				
			小計(1科目)	—	2	0	0	0	1	0	0	0	0
法 学 理 学 療 法													

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門教育分野	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	運動解剖学	2前	1					1			
		運動学	1後	1						1		
		運動学実習	2前	1				2	2			
		運動生理学	2前	1			1	1				
		解剖学Ⅰ	1前	1		1						
		解剖学Ⅱ	1後	1		1						
		解剖学Ⅲ	1後	1		1						
		解剖学実習Ⅰ	1前	1		1			1			
		解剖学実習Ⅱ	1後	1		1	1					
		心身機能発達学	1後	1					2			
		生理学Ⅰ	1前	1		1						
		生理学Ⅱ	1後	1		1						
		生理学実習	1後	1		1	1		1			
		小計(13科目)	—	13	0	0	1	3	5	0	0	0
	疾 病 と 傷 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	医学一般Ⅰ	2前	1			1	1				
		医学一般Ⅱ	2後	1			1	1				
		栄養学	2前	1								1
		画像診断学	2前	1				1				
		救急救命医学	3前	1			1	1				
		公衆衛生学	2前	1								1
		疾病予防と健康増進	3前		2		1					
		神経内科学Ⅰ	2前	1				1				
		神経内科学Ⅱ	2後	1				1				
		整形外科Ⅰ	2前	1			1					
		整形外科Ⅱ	2後	1			1					
		精神医学	2前	1					1			
		病理学	2前	1					1			
		薬理学	3前	1								1
		臨床心理学	2後	1				1				
		小計(15科目)	—	14	2	0	2	1	0	0	0	3
	ハ バ リ テ ー シ ョ ン の 理 念	健康ビジネス論	4後		2							1
		社会福祉概論	2前	1								1
		地域包括ケアシステム論	3後	1								1
		チーム医療論	3後	1					1			
		リハビリテーション概論	1前	1			1					
		小計(5科目)	—	4	2	0	1	0	1	0	0	2
	基 礎 理 学 療 法 学	基礎理学療法学	1後	1					1			
		基礎理学療法学演習Ⅰ	1前	1			4	7	6			
		基礎理学療法学演習Ⅱ	1後	1			4	7	6			
		生体観察と触診法	1後	1			1		2			
		理学療法学概論	1前	1			2	5	3			
		理学療法学特論	2後			1	1	2	5			
		理学療法文献講読	3前		2			1				
		理学療法臨床英語	3後	1					1			
		小計(8科目)	—	6	3	0	4	7	6	0	0	0
		理学療法管理学	4後	2				1				
		小計(1科目)	—	2	0	0	0	1	0	0	0	0
法 理 学 管 理 学												

科目 区分			授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任		
					必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門 教育 分野	専門 科目	理学 療法 評価 学	機能・能力評価学Ⅰ	1後	2			1							
			機能・能力評価学 実習Ⅰ	1後	1			1		1					
			機能・能力評価学Ⅱ	2前	2			1							
			機能・能力評価学 実習Ⅱ	2前	1			2							
			臨床運動分析学演習	2後	2			1							
		小計(5科目)			—	8	0	0	3	0	1	0	0	0	
		理学 療法 治 療 学	ウィメンズヘルス・メンズ ヘルス理学療法	4後	1			1							
			運動器理学療法学Ⅰ	2後	1					1					
			運動器理学療法学 実習Ⅰ	2後	1			1		2					
			運動器理学療法学Ⅱ	3前	1					1					
			運動器理学療法学 実習Ⅱ	3前	1			1		2					
			運動療法学	1後	1				1						
			運動療法学実習	2前	1			2							
			義肢装具学	2後	1					1					
			義肢装具学演習	2後	1			1		1					
			クリニカル・リブズニン グ総論	3後		2		1							
			クリニカル・リブズニン グ各論	4後		2		1							
			障がい者スポーツ 支援論	4後		2				1					
			小児理学療法学	3前	1					1					
			神経・筋疾患理学 療法学	3前	1					1					
			スポーツトレーニング特 論	4後		2		1							
			スポーツ理学療法学	3前		2		1							
			スポーツ理学療法学 演習	3後		2				1					
			神経理学療法学Ⅰ	2後	1			1							
			神経理学療法学実習Ⅰ	2後	1			1		1					
			神経理学療法学Ⅱ	3前	1			1		1					
			神経理学療法学実習Ⅱ	3前	1			2							
			疼痛理学療法学	3後	1			1		1					
			内部機能理学療法学Ⅰ	3前	1			1		1					
			内部機能理学療法学Ⅱ	3前	1										
			内部機能理学療法学実 習	3前	1			1		1					
			日常生活活動理学 療法学	2後	1				1						
			日常生活活動理学 療法学実習	2後	1				1	1					
			物理療法学	2後	1				1						
			物理療法学実習	2後	1				2						
			理学療法リスクマネジ メント演習	2後	1				1						
			理学療法学演習Ⅰ	2前	1			4	7	5					
			理学療法学演習Ⅱ	2後	1			3	5	5					
			理学療法学演習Ⅲ	3前	1			3	8	5					
			臨床理学療法論	4後		2		1							
			小計(34科目)			—	27	14	0	4	8	5	0	0	1
		地域 理 学 療 法 学	介護予防評価演習	3後		2		1	1						
			生活環境支援理学 療法学	3後	1			1							
			地域理学療法学	3前	1				1						
			予防理学療法学総論	3前	1			1							
			予防理学療法学各論	4後		2		1							
		小計(5科目)			—	3	4	0	1	2	1	0	0	0	
		臨床 実 習	機能・能力評価学臨床 実習	2後	5			4	7	5					
			総合臨床実習Ⅰ	3後	7			4	7	5					
			総合臨床実習Ⅱ	4前	9			4	7	5					
			小計(3科目)			—	21	0	0	4	7	5	0	0	0
		総合 分 野	総合理学療法学	4後	2			3	8	5					
			理学療法学研究法	3後	1			6	8	5					
			理学療法学研究実践法	4通	2			6	8	5					
			小計(3科目)			—	5	0	0	6	8	5	0	0	0
		合計(125科目)				—	##	98	0	7	9	5	0	0	32
		卒業要件及び履修方法													
		1.基礎教育分野から18単位以上(「TJUコア科目」の必修科目4単位、「人間と文化」の必修科目4単位、「自然科学と環境」の必修科目2単位、「英語」の必修科目4単位、基礎教育分野の選択科目4単位以上)を修得。													
		2.専門教育分野の専門基礎科目の必修科目31単位を修得。													
		3.専門教育分野の専門科目の必修科目72単位を修得。													
		4.専門教育分野の専門基礎科目及び専門科目の選択科目を9単位以上修得。													
		5.卒業要件単位数である130単位以上修得していることを卒業要件とする。													
		6.履修上限単位数は各学期20単位と定める。ただし、臨床実習科目や集中講義等の授業期間外に修得する単位はこれに含めない。													

科目 区分			授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
					必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 教育 分野	専 門 科 目	理学療法評価学	機能・能力評価学Ⅰ	1後	2			1						
			機能・能力評価学 実習Ⅰ	1後	1			1		1				
			機能・能力評価学Ⅱ	2前	2			1						
			機能・能力評価学 実習Ⅱ	2前	1			2						
			臨床運動分析学演習	2後	2			1						
		小計(5科目)	—	8	0	0	3	0	1	0	0	0		
		理学療法治療学	ウィメンズヘルス・メンズ ヘルス理学療法	4後	1			1						
			運動器理学療法学Ⅰ	2後	1					1				
			運動器理学療法学 実習Ⅰ	2後	1			1		2				
			運動器理学療法学Ⅱ	3前	1					1				
			運動器理学療法学 実習Ⅱ	3前	1			1		2				
			運動療法学	1後	1				1					
			運動療法学実習	2前	1				2					
			義肢装具学	2後	1					1				
			義肢装具学演習	2後	1				1	1				
			クリニカル・リブズニン グ総論	3後		2			1					
			クリニカル・リブズニン グ各論	4後		2			1					
			障がい者スポーツ 支援論	4後		2				1				
			小児理学療法学	3前	1					1				
			神経・筋疾患理理学 療法学	3前	1					1				
			スポーツトレーニング特 論	4後		2			1					
			スポーツ理学療法学	3前		2			1					
			スポーツ理学療法学 演習	3後		2				1				
			神経理学療法学Ⅰ	2後	1			1						
			神経理学療法学実習Ⅰ	2後	1			1	1					
			神経理学療法学Ⅱ	3前	1			1	1					
			神経理学療法学実習Ⅱ	3前	1			2						
			疼痛理学療法学	3後	1			1	1					
			内部機能理学療法学Ⅰ	3前	1			1	1					
			内部機能理学療法学Ⅱ	3前	1									
			内部機能理学療法学実 習	3前	1				1					
			日常生活活動理理学 療法学	2後	1				1					
			日常生活活動理理学 療法学実習	2後	1				1	1				
			物理療法学	2後	1				1					
			物理療法学実習	2後	1				1	1				
			理学療法リスクマネジ メント演習	2後	1				1					
			理学療法学演習Ⅰ	2前	1			4	6	6				
			理学療法学演習Ⅱ	2後	1			3	4	6				
			理学療法学演習Ⅲ	3前	1			3	7	6				
			臨床理学療法学	4後				1						
			小計(34科目)	—	27	14	0	4	7	6	0	0	1	
		地域 理 学 療 法 学	介護予防評価演習	3後		2		1	1					
			生活環境支援理理学 療法学	3後	1			1						
			地域理理学療法学	3前	1				1					
			予防理理学療法学総論	3前	1			1						
			予防理理学療法学各論	4後		2	1							
			小計(5科目)	—	3	4	0	1	2	1	0	0	0	
		臨床 実 習	機能・能力評価学臨床 実習	2後	5			4	6	6				
			総合臨床実習Ⅰ	3後	7			4	6	6				
			総合臨床実習Ⅱ	4前	9			4	6	6				
			小計(3科目)	—	21	0	0	4	6	6	0	0	0	
		総 合 分 野	総合理理学療法学	4後	2			3	7	6				
			理理学療法学研究法	3後	1			6	7	6				
			理理学療法学研究実践法	4通	2			6	7	6				
			小計(3科目)	—	5	0	0	6	8	6	0	0	0	
合計(125科目)				—	##	98	0	7	8	6	0	0	31	
卒業要件及び履修方法														
1.基礎教育分野から18単位以上(「TJUコア科目」の必修科目4単位、「人間と文化」の必修科目4単位、「自然科学と環境」の必修科目2単位、「英語」の必修科目4単位、基礎教育分野の選択科目4単位以上)を修得。 2.専門教育分野の専門基礎科目の必修科目31単位を修得。 3.専門教育分野の専門科目の必修科目72単位を修得。 4.専門教育分野の専門基礎科目及び専門科目の選択科目を9単位以上修得。 5.卒業要件単位数である130単位以上修得していることを卒業要件とする。 6.履修上限単位数は各学期20単位と定める。ただし、臨床実習科目や集中講義等の授業期間外に修得する単位はこれに含めない。														

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・ カリキュラムの見直しにより、法学の配当年次を「1前・後」から「1前」に変更。
- ・ 履修者数を考慮し、Oral Communicationの担当教員数を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・ 履修者数を考慮し、Reading & Writingの担当教員数を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・ 2021年1月AC教員審査により、神戸晃男准教授を追加。この結果、専任教員等の配置欄について、基礎理学療法学演習Ⅰ、基礎理学療法学演習Ⅱの「准教授6」を「准教授7」に、理学療法管理学の「准教授0」を「准教授1」に、理学療法学演習Ⅰの「准教授5」を「准教授6」に、理学療法学演習Ⅱの「准教授3」を「准教授4」に、理学療法学演習Ⅲの「准教授6」を「准教授7」に、機能・能力評価学臨床実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱの「准教授5」を「准教授6」に、理学療法学研究法、理学療法学研究実践法の「准教授6」を「准教授7」に変更。
- ・ 2021年1月AC教員審査により、米澤美園専任講師に担当科目を追加。この結果、専任教員等の配置欄について、神経・筋疾患理学療法学の「講師0」を「講師1」に変更。

【令和4年度】

- ・ カリキュラムの見直しにより、Introduction to American Societyの配当年次を「1後」から「1前」に変更。
 - ・ カリキュラムの見直しにより、法学の配当年次を「1前」から「1前・後」に変更。
 - ・ 担当教員の退職に伴い、情報処理の基礎の担当教員数を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
 - ・ カリキュラムの見直しにより、画像診断学を「2前」から「2後」に変更。
 - ・ 一寸木洋平講師が准教授に昇格。この結果、令和3年度報告時と比較し、専任教員等の配置欄を下記のとおり変更。
- 運動学「講師1・准教授0」→「講師0・准教授1」、運動学実習「講師2・准教授2」→「講師1・准教授3」、解剖学実習Ⅰおよび生理学実習「講師1・准教授0」→「講師0・准教授1」、基礎理学療法学演習Ⅰおよび基礎理学療法学演習Ⅱ「講師6・准教授7」→「講師5・准教授8」、理学療法学特論「講師5・准教授2」→「講師4・准教授3」、物理療法学実習「講師1・准教授1」→「講師0・准教授2」、理学療法学演習Ⅰ「講師6・准教授6」→「講師5・准教授7」、理学療法学演習Ⅱ「講師6・准教授4」→「講師5・准教授5」、理学療法学演習Ⅲ「講師6・准教授7」→「講師5・准教授8」、機能・能力評価学臨床実習および総合臨床実習Ⅰおよび総合臨床実習Ⅱ「講師6・准教授6」→「講師5・准教授7」、総合理学療法学および理学療法学研究法および理学療法学研究実践法「講師6・准教授7」→「講師5・准教授8」。

【令和5年度】

- ・ 開講時限の見直し、担当教員の退職に伴い、法学の担当教員数を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任0」に変更。
 - ・ 担当教員が研修によって不在のため、社会学の担当教員数を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
 - ・ 担当教員の退職に伴い、健康・スポーツ科学の担当教員数を「教授1、兼任・兼任1」から「教授1、兼任・兼任0」に変更、健康・スポーツ実技の担当教員数を「教授1、兼任・兼任2」から「教授1、兼任・兼任1」に変更。
 - ・ 担当教員の異動に伴い、Reading & Writingの担当教員数を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
 - ・ 芝原美由紀講師の退職に伴い、科目の担当教員数を令和4年度の報告時と比較し、下記のとおり変更。
- | | |
|--------------|--|
| 心身機能発達学 | 「講師2」→「講師1、兼任・兼任1」 |
| 基礎理学療法学演習Ⅰ | 「教授4、准教授8、講師5」→「教授4、准教授8、講師4」 |
| 基礎理学療法学演習Ⅱ | 「教授4、准教授8、講師5」→「教授4、准教授8、講師4」 |
| 生態観察と触診法 | 「教授1、講師2」→「教授1、講師1」 |
| 理学療法学特論 | 「教授1、准教授3、講師4」→「教授1、准教授3、講師3」※後任の補充教員がAC教員審査を受審中 |
| 義肢装具学 | 「講師1」→「講師0」※後任の補充教員がAC教員審査を受審中 |
| 義肢装具演習 | 「准教授1、講師1」→「准教授1」※後任の補充教員がAC教員審査を受審中 |
| 小児理学療法学 | 「講師1」→「兼任・兼任1」 |
| 理学療法学演習Ⅰ | 「教授4、准教授7、講師5」→「教授4、准教授7、講師4」 |
| 理学療法学演習Ⅱ | 「教授3、准教授5、講師5」→「教授3、准教授5、講師4」 |
| 理学療法学演習Ⅲ | 「教授3、准教授8、講師5」→「教授3、准教授8、講師4」 |
| 機能・能力評価学臨床実習 | 「教授4、准教授7、講師5」→「教授4、准教授7、講師4」 |
| 総合臨床実習Ⅰ | 「教授4、准教授7、講師5」→「教授4、准教授7、講師4」 |
| 総合臨床実習Ⅱ | 「教授4、准教授7、講師5」→「教授4、准教授7、講師4」 |
| 総合理学療法学 | 「教授3、准教授8、講師5」→「教授3、准教授8、講師4」 |
| 理学療法学研究法 | 「教授6、准教授8、講師5」→「教授6、准教授8、講師4」 |
| 理学療法学研究実践法 | 「教授6、准教授8、講師5」→「教授6、准教授8、講師4」 |

- (注) ・ 2(1) ①授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
86 科目	39 科目	0 科目	125 科目	86 科目 [0]	39 科目 [0]	0 科目 [0]	125 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	法学	4	1前・後	一般	選択	理由：担当教員の退職 代替措置の有無：無／1前・後共に、専門科目（必修）と時間割が重複しているため
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見、今後の方針」：

科目設置可能時限が学科の専門科目（必修）の時間割と重複しているため代替措置はとらない。
次年度科目担当割、必修科目との兼ね合い等を踏まえ、状況に応じて開講を検討する。

「学生への周知方法」：

オリエンテーション時に説明、シラバス、時間割の公開。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{1}{125} = \boxed{0.8} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考				
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地から運動用地 までの距離等 ・坂戸キャンパス：7 km（バス利用15分） ・河川敷校地：3km （バス利用3分）				
	校 舎 敷 地	77,288㎡	㎡	㎡	77,288㎡					
	運動場用地	201,978㎡	㎡	㎡	201,978㎡					
	小 計	279,266㎡	㎡	㎡	279,266㎡					
	そ の 他	2,675㎡	㎡	㎡	2,675㎡					
	合 計	281,941㎡	㎡	㎡	281,941㎡					
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	下段が現有面積、上段が 池袋キャンパス（令和5 年9月完成予定）を含ん だ面積。				
		(61,195㎡)	(㎡)	(㎡)	(61,195㎡)					
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	演習室・実習室の充実化 のため、講義室から改修 (4)			
		104室 124室	17室 14室	18室 7室	21室 (補助職員 0人)	12室 (補助職員 0人)				
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		教員の辞任に伴う減少 (5)			
		医療健康学部 理学療法学科			20 21 室					
(5)図書・設備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	【注】学部単位では特定 不能なため、大学全体の 数を記載している。 館内スペースの確保のた め、使用頻度の低い図書 等や内容が古い図書等を 除籍（4） 新規購入、除籍に伴い変 動（5）		
		医療健康学部	693,218 [115,698] 673,458 [114,566] -(671,564 [114,461]) -(681,218 [113,998])	15,657 [14,089] 15,156 [13,588] -(15,257 [13,684]) -(15,634 [14,076])	12,111 [12,111] 11,616 [11,616] -(11,712 [11,712]) -(12,111 [12,111])	15,762 15,737 -(15,732) -(15,722)	355 (355)		(—)	
		計	693,218 [115,698] 673,458 [114,566] -(671,564 [114,461]) -(681,218 [113,998])	15,657 [14,089] 15,156 [13,588] -(15,257 [13,684]) -(15,634 [14,076])	12,111 [12,111] 11,616 [11,616] -(11,712 [11,712]) -(12,111 [12,111])	15,762 15,737 -(15,732) -(15,722)	355 (355)		(—)	
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		【注】大学全体 レイアウト変更により座 席数増（4）		
		10,274㎡		673 648		699,000				
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				【注】大学全体		
		4,473㎡		野球場2面、テニスコート8面、サッカー場3面、ゴルフ練習場2面、フットサル場3面、アーチェリー場1面、400Mトラック1面、ソフトボール場2面						
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。	
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	0千円	19,278千円	3,716千円		
		共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	0千円	221,441千円	0千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次		第3年次		第4年次		第5年次	第6年次
		1,800千円	1,550千円		1,550千円		1,550千円		— 千円	— 千円
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、雑収入						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（5）」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	東京国際大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考					
商学部	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
商学科	4	260	—	880	—	0.90	—	0.90	—		昭和40	埼玉県川越市北1-13-1						
経営学科	4	100	—	400	学士(商学)	0.75	—	0.76	—		平成25	同上	定員変更R4 (80)					
経済学部	4	160	—	480	学士(経営学)	0.95	—	1.01	0.99	令和4	平成25	同上						
経済学科	4	475	—	1860	—	1.11	1.11	0.98	—		平成1	同上	定員変更R3 (40)					
言語コミュニケーション学部	4	475	—	1860	学士(経済学)	1.11	1.11	0.98	—	令和3	平成1	同上						
英語コミュニケーション学科	4	250	—	980	—	0.84	—	0.83	—		平成16	同上	定員変更R3 (20)					
国際関係学部	4	250	—	980	学士(言語コミュニケーション学)	0.84	—	0.83	—	令和3	平成16	同上						
国際関係学科	4	370	—	1445	—	0.98	—	0.90	—		平成7	同上	定員変更R3 (65)					
国際メディア学科	4	310	—	1205	学士(国際関係学)	1.08	1.08	0.93	—	令和3	平成7	同上						
医療健康学部	4	60	—	240	学士(国際メディア学)	0.81	—	0.77	—		平成19	同上						
理学療法学科	4	80	—	240	—	0.94	—	0.87	—		令和3	同上	学部開設R3 (80)					
人間社会学部	4	80	—	240	学士(理学療法学)	0.94	—	0.87	—	令和3	令和3	同上						
福祉心理学科	4	500	—	1885	—	0.97	—	0.95	—		平成7	埼玉県川越市北2509	定員変更R4 (20)					
人間スポーツ学科	4	45	—	140	学士(福祉心理学)	0.94	—	0.92	—	令和4	平成7	同上						
スポーツ科学科	4	245	—	935	学士(人間スポーツ学)	0.89	—	0.91	—	令和5	平成23	同上	定員変更R5 (15)					
大学全体	4	210	—	810	学士(スポーツ科学)	1.08	1.07	0.99	—	令和5	平成24	同上	定員変更R5 (10)					

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜医療健康学部 理学療法学科＞

(1) ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	高井 信朗 (65) ＜令和3年4月1日＞ 医学博士
		医学一般Ⅱ 救急救命医学 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ
		小川 哲郎 (58) ＜令和3年4月1日＞ 博士（理学）
		基礎統計学 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学Ⅲ 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	教授	杉本 諭 (54) ＜令和3年4月1日＞ 博士（保健医療学）
		疾病予防と健康増進 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 機能・能力評価学Ⅱ 機能・能力評価学実習Ⅱ 神経理学療法学Ⅰ 神経理学療法学実習Ⅰ 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 臨床理学療法論 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
		武田 要 (49) ＜令和3年4月1日＞ 博士（保健医療学）
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 機能・能力評価学Ⅰ 機能・能力評価学実習Ⅰ 臨床運動分析学演習 ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法 理学療法学演習Ⅰ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	高井 信朗 (66) ＜令和3年4月1日＞ 医学博士
		医学一般Ⅱ 救急救命医学 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ
		小川 哲郎 (59) ＜令和3年4月1日＞ 博士（理学）
		基礎統計学 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学Ⅲ 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	教授	杉本 諭 (55) ＜令和3年4月1日＞ 博士（保健医療学）
		疾病予防と健康増進 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 機能・能力評価学Ⅱ 機能・能力評価学実習Ⅱ 神経理学療法学Ⅰ 神経理学療法学実習Ⅰ 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 臨床理学療法論 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
		武田 要 (50) ＜令和3年4月1日＞ 博士（保健医療学）
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 機能・能力評価学Ⅰ 機能・能力評価学実習Ⅰ 臨床運動分析学演習 ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法 理学療法学演習Ⅰ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	高井 信朗 (67) ＜令和3年4月1日＞ 医学博士
		医学一般Ⅱ 救急救命医学 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ
		小川 哲郎 (60) ＜令和3年4月1日＞ 博士（理学）
		基礎統計学 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学Ⅲ 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	教授	杉本 諭 (56) ＜令和3年4月1日＞ 博士（保健医療学）
		疾病予防と健康増進 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 機能・能力評価学Ⅱ 機能・能力評価学実習Ⅱ 神経理学療法学Ⅰ 神経理学療法学実習Ⅰ 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 臨床理学療法論 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
		武田 要 (51) ＜令和3年4月1日＞ 博士（保健医療学）
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 機能・能力評価学Ⅰ 機能・能力評価学実習Ⅰ 臨床運動分析学演習 ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法 理学療法学演習Ⅰ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	高井 信朗 (68) ＜令和3年4月1日＞ 医学博士
		医学一般Ⅱ 救急救命医学 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ
		小川 哲郎 (61) ＜令和3年4月1日＞ 博士（理学）
		基礎統計学 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学Ⅲ 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	教授	杉本 諭 (57) ＜令和3年4月1日＞ 博士（保健医療学）
		疾病予防と健康増進 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 機能・能力評価学Ⅱ 機能・能力評価学実習Ⅱ 神経理学療法学Ⅰ 神経理学療法学実習Ⅰ 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 臨床理学療法論 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
		武田 要 (52) ＜令和3年4月1日＞ 博士（保健医療学）
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 機能・能力評価学Ⅰ 機能・能力評価学実習Ⅰ 臨床運動分析学演習 ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法 理学療法学演習Ⅰ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	諸角 一記 (65) ＜令和3年4月1日＞ 博士（学術）	専	准教授	諸角 一記 (66) ＜令和3年4月1日＞ 博士（学術）	専	准教授	諸角 一記 (67) ＜令和3年4月1日＞ 博士（学術）	専	准教授	諸角 一記 (68) ＜令和3年4月1日＞ 博士（学術）
		運動学実習			運動学実習			運動学実習			運動学実習
		基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ
		基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ
		理学療法学概論			理学療法学概論			理学療法学概論			理学療法学概論
		理学療法学特論			理学療法学特論			理学療法学特論			理学療法学特論
		理学療法文献講読			理学療法文献講読			理学療法文献講読			理学療法文献講読
		義肢装具学演習			義肢装具学演習			義肢装具学演習			義肢装具学演習
		物理療法学			物理療法学			物理療法学			物理療法学
		物理療法学実習			物理療法学実習			物理療法学実習			物理療法学実習
		理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ
		理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ
		理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ
		機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習
		総合臨床実習Ⅰ			総合臨床実習Ⅰ			総合臨床実習Ⅰ			総合臨床実習Ⅰ
		総合臨床実習Ⅱ			総合臨床実習Ⅱ			総合臨床実習Ⅱ			総合臨床実習Ⅱ
専任	准教授	二宮 省悟 (50) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）	専任	准教授	二宮 省悟 (51) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）	専任	准教授	二宮 省悟 (52) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）	専任	准教授	二宮 省悟 (53) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）
		基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ
		基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ
		理学療法学概論			理学療法学概論			理学療法学概論			理学療法学概論
		運動療法学実習			運動療法学実習			運動療法学実習			運動療法学実習
		クリニカル・リーズニング総論			クリニカル・リーズニング総論			クリニカル・リーズニング総論			クリニカル・リーズニング総論
		クリニカル・リーズニング各論			クリニカル・リーズニング各論			クリニカル・リーズニング各論			クリニカル・リーズニング各論
		神経理学療法学実習Ⅱ			神経理学療法学実習Ⅱ			神経理学療法学実習Ⅱ			神経理学療法学実習Ⅱ
		理学療法リスクマネジメント演習			理学療法リスクマネジメント演習			理学療法リスクマネジメント演習			理学療法リスクマネジメント演習
		理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ
		理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ
		理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ
		機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習
		総合臨床実習Ⅰ			総合臨床実習Ⅰ			総合臨床実習Ⅰ			総合臨床実習Ⅰ
		総合臨床実習Ⅱ			総合臨床実習Ⅱ			総合臨床実習Ⅱ			総合臨床実習Ⅱ
		総合理学療法学			総合理学療法学			総合理学療法学			総合理学療法学
専	准教授	戸島 美智生 (36) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）	専	准教授	戸島 美智生 (37) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）	専	准教授	戸島 美智生 (38) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）	専	准教授	戸島 美智生 (39) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）
		運動学実習			運動学実習			運動学実習			運動学実習
		運動生理学			運動生理学			運動生理学			運動生理学
		基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ
		基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ
		理学療法学概論			理学療法学概論			理学療法学概論			理学療法学概論
		運動療法学			運動療法学			運動療法学			運動療法学
		運動療法学実習			運動療法学実習			運動療法学実習			運動療法学実習
		スポーツトレーニング特論			スポーツトレーニング特論			スポーツトレーニング特論			スポーツトレーニング特論
		スポーツ理学療法学			スポーツ理学療法学			スポーツ理学療法学			スポーツ理学療法学
		理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ
		理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ
		機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習
		総合臨床実習Ⅰ			総合臨床実習Ⅰ			総合臨床実習Ⅰ			総合臨床実習Ⅰ
		総合臨床実習Ⅱ			総合臨床実習Ⅱ			総合臨床実習Ⅱ			総合臨床実習Ⅱ
		総合理学療法学			総合理学療法学			総合理学療法学			総合理学療法学
		理学療法学研究法			理学療法学研究法			理学療法学研究法			理学療法学研究法
		理学療法学研究実践法			理学療法学研究実践法			理学療法学研究実践法			理学療法学研究実践法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	講師	一寸木 洋平 (33) ＜令和3年4月1日＞ 博士（学術）	専	講師	一寸木 洋平 (34) ＜令和3年4月1日＞ 博士（学術）	専	准教授	一寸木 洋平 (35) ＜令和3年4月1日＞ 博士（学術）	専	准教授	一寸木 洋平 (36) ＜令和3年4月1日＞ 博士（学術）
		運動学			運動学			運動学			運動学
		運動学実習			運動学実習			運動学実習			運動学実習
		解剖学実習Ⅰ			解剖学実習Ⅰ			解剖学実習Ⅰ			解剖学実習Ⅰ
		生理学実習			生理学実習			生理学実習			生理学実習
		基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ
		基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ
		理学療法学特論			理学療法学特論			理学療法学特論			理学療法学特論
		物理療法学実習			物理療法学実習			物理療法学実習			物理療法学実習
		理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ
		理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ
		理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ
		機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習
専	講師	猪股 高志 (61) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）	専	講師	猪股 高志 (62) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）	専	講師	猪股 高志 (63) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）	専	講師	猪股 高志 (64) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）
		運動生理学			運動生理学			運動生理学			運動生理学
		心身機能発達学			心身機能発達学			心身機能発達学			心身機能発達学
		チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論			チーム医療論
		基礎理学療法学			基礎理学療法学			基礎理学療法学			基礎理学療法学
		基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ
		基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ
		理学療法学概論			理学療法学概論			理学療法学概論			理学療法学概論
		理学療法学特論			理学療法学特論			理学療法学特論			理学療法学特論
		理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ
		理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ
		理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ
		機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習
専	講師	芝原 美由紀 (61) ＜令和3年4月1日＞ 博士（健康情報科学）	専	講師	芝原 美由紀 (62) ＜令和3年4月1日＞ 博士（健康情報科学）	専	講師	芝原 美由紀 (63) ＜令和3年4月1日＞ 博士（健康情報科学）	専	講師	
		心身機能発達学			心身機能発達学			心身機能発達学			
		基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ			基礎理学療法学演習Ⅰ			
		基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ			基礎理学療法学演習Ⅱ			
		生体観察と触診法			生体観察と触診法			生体観察と触診法			
		理学療法学特論			理学療法学特論			理学療法学特論			
		義肢装具学			義肢装具学			義肢装具学			
		義肢装具学演習			義肢装具学演習			義肢装具学演習			
		小児理学療法学			小児理学療法学			小児理学療法学			
		理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ			理学療法学演習Ⅰ			
		理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ			理学療法学演習Ⅱ			
		理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ			理学療法学演習Ⅲ			
		機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習			機能・能力評価学臨床実習			
専	講師	総合臨床実習Ⅰ	専	講師	総合臨床実習Ⅰ	専	講師	総合臨床実習Ⅰ	専	講師	総合臨床実習Ⅰ
		総合臨床実習Ⅱ			総合臨床実習Ⅱ			総合臨床実習Ⅱ			総合臨床実習Ⅱ
		総合理学療法学			総合理学療法学			総合理学療法学			総合理学療法学
		理学療法学研究法			理学療法学研究法			理学療法学研究法			理学療法学研究法
		理学療法学研究実践法			理学療法学研究実践法			理学療法学研究実践法			理学療法学研究実践法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	平山 龍水 (66) ＜令和3年4月1日＞ 博士（法学）
		I C T基礎 大学生活デザイン演習 インターンシップ（体験型） インターンシップ（実践学修型） ボランティア活動 キャリア・R e-スタート
兼任	教授	吉田 量彦 (49) ＜令和3年4月1日＞ 博士（哲学）
		哲学 倫理学
兼任	教授	柄本 三代子 (64) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		社会学 現代の社会
兼任	教授	高田 知和 (57) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		社会学
兼任	教授	浮田 聡 (65) ＜令和3年4月1日＞ 博士（経済学）
		地域の安全と警察
兼任	教授	筑井 麻紀子 (53) ＜令和3年4月1日＞ 博士（工学）
		環境と自然
兼任	教授	小田切 紀子 (58) ＜令和3年4月1日＞ 博士（心理学）
		人間関係論
兼任	教授	竹内 宏行 (58) ＜令和3年4月1日＞ 博士（工学）
		基礎統計学
兼任	准教授	服部 泰造 (52) ＜令和3年4月1日＞ 修士（理工学）
		情報処理の基礎
兼任	准教授	鄭 志誠 (47) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）
		生命倫理学
兼任	准教授	植村 清加 (47) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		文化人類学
兼任	准教授	岩田 真一 (52) ＜令和3年4月1日＞ 修士（体育学）
		健康・スポーツ科学 健康・スポーツ実技

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	上野 博 (63) ＜令和3年4月1日＞ 博士（商学）
		I C T基礎 大学生活デザイン演習 インターンシップ（体験型） インターンシップ（実践学修型） ボランティア活動 キャリア・R e-スタート
兼任	教授	吉田 量彦 (50) ＜令和3年4月1日＞ 博士（哲学）
		哲学 倫理学
兼任	教授	柄本 三代子 (56) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		社会学 現代の社会
兼任	教授	高田 知和 (58) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		社会学
兼任	教授	平山 龍水 (67) ＜令和3年4月1日＞ 博士（法学）
		地域の安全と警察
兼任	教授	筑井 麻紀子 (54) ＜令和3年4月1日＞ 博士（工学）
		環境と自然
兼任	教授	小田切 紀子 (59) ＜令和3年4月1日＞ 博士（心理学）
		人間関係論
兼任	教授	竹内 宏行 (59) ＜令和3年4月1日＞ 博士（工学）
		基礎統計学
兼任	准教授	服部 泰造 (53) ＜令和3年4月1日＞ 修士（理工学）
		情報処理の基礎
兼任	准教授	鄭 志誠 (48) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）
		生命倫理学
兼任	准教授	植村 清加 (47) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		文化人類学
兼任	准教授	岩田 真一 (53) ＜令和3年4月1日＞ 修士（体育学）
		健康・スポーツ科学 健康・スポーツ実技

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	上野 博 (64) ＜令和3年4月1日＞ 博士（商学）
		I C T基礎 大学生活デザイン演習 インターンシップ（体験型） インターンシップ（実践学修型） ボランティア活動 キャリア・R e-スタート
兼任	教授	吉田 量彦 (51) ＜令和3年4月1日＞ 博士（哲学）
		哲学 倫理学
兼任	教授	高田 知和 (59) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		社会学
兼任	教授	平山 龍水 (68) ＜令和3年4月1日＞ 博士（法学）
		地域の安全と警察
兼任	教授	筑井 麻紀子 (55) ＜令和3年4月1日＞ 博士（工学）
		環境と自然 情報処理の基礎
兼任	教授	小田切 紀子 (60) ＜令和3年4月1日＞ 博士（心理学）
		人間関係論
兼任	教授	竹内 宏行 (60) ＜令和3年4月1日＞ 博士（工学）
		基礎統計学
兼任	教授	斐品 正照 (49) ＜令和4年4月1日＞ 博士（教育情報学）
		情報処理の基礎
兼任	准教授	鄭 志誠 (49) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）
		生命倫理学
兼任	准教授	植村 清加 (48) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		文化人類学
兼任	准教授	岩田 真一 (54) ＜令和3年4月1日＞ 修士（体育学）
		健康・スポーツ科学 健康・スポーツ実技

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	小室 広佐子 (66) ＜令和5年4月1日＞ 修士（社会情報学）
		I C T基礎 大学生活デザイン演習 インターンシップ（体験型） インターンシップ（実践学修型） ボランティア活動 キャリア・R e-スタート
兼任	教授	吉田 量彦 (52) ＜令和3年4月1日＞ 博士（哲学）
		哲学 倫理学
兼任	教授	柄本 三代子 (57) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		社会学 現代の社会
兼任	教授	三宅 紀子 (66) ＜令和5年4月1日＞ 博士（教育学）
		地域の安全と警察
兼任	教授	筑井 麻紀子 (56) ＜令和3年4月1日＞ 博士（工学）
		環境と自然 情報処理の基礎
兼任	教授	小田切 紀子 (61) ＜令和3年4月1日＞ 博士（心理学）
		人間関係論
兼任	教授	竹内 宏行 (61) ＜令和3年4月1日＞ 博士（工学）
		基礎統計学
兼任	教授	斐品 正照 (50) ＜令和4年4月1日＞ 博士（教育情報学）
		情報処理の基礎
兼任	准教授	鄭 志誠 (50) ＜令和3年4月1日＞ 博士（医学）
		生命倫理学
兼任	准教授	植村 清加 (49) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		文化人類学
兼任	准教授	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		スキヤヴォネ スカイラ ヴィンセント Schiafone Skyler Vincent (35) ＜令和3年4月1日＞ 修士（TESOL）
		Oral Communication Reading & Writing
兼任 講師		アビゲイル キャリガン Abigail Carrigan (31) ＜令和3年4月1日＞ 修士（TESOL）
		Oral Communication Reading & Writing
兼任 講師		フェニヤート ペドロ Faingnaert Pedro (49) ＜令和3年4月1日＞ 修士（TESOL）
		Introduction to American Society
兼任 講師		フィリップ ジョンソン Phillip Johnson (35) ＜令和3年4月1日＞ 修士（TESOL）
		Oral Communication Reading & Writing
兼任 講師		清水 良一 (53) ＜令和3年4月1日＞ 修士（声学）
		芸術論
兼任 講師		亀田 洋二 (56) ＜令和3年4月1日＞ 芸術修士
		芸術論
兼任 講師		大塚 敬子 (50) ＜令和3年4月1日＞ 修士（法学）
		法学
兼任 講師		横 裕輔 (48) ＜令和3年4月1日＞ 修士（法学）
		憲法
兼任 講師		宇根 優子 (45) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		心理学概論
兼任 講師		網野 友雄 (39) ＜令和3年4月1日＞ 修士（コーチング学）
		健康・スポーツ実技

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		ミューラー ケビン MUELLER Kevin (52) ＜令和3年4月1日＞ 修士（教育学）
		Oral Communication Reading & Writing
兼任 准教授		ヘイズ ジョージ HAYS George (39) ＜令和3年4月1日＞ 修士（教育学）
		Oral Communication Reading & Writing
兼任 講師		清水 良一 (54) ＜令和3年4月1日＞ 修士（声学）
		芸術論
兼任 講師		亀田 洋二 (57) ＜令和3年4月1日＞ 芸術修士
		芸術論
兼任 講師		大塚 敬子 (51) ＜令和3年4月1日＞ 修士（法学）
		法学
兼任 講師		横 裕輔 (49) ＜令和3年4月1日＞ 修士（法学）
		憲法
兼任 講師		宇根 優子 (46) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		心理学概論
兼任 講師		網野 友雄 (40) ＜令和3年4月1日＞ 修士（コーチング学）
		健康・スポーツ実技

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		ミューラー ケビン MUELLER Kevin (52) ＜令和3年4月1日＞ 修士（教育学）
		Reading & Writing
兼任 講師		ミンチュエロ ジョージ MINCHILLO George (51) ＜令和4年4月1日＞ Master of Arts in Linguistics - Language Teaching - Specialization
		Oral Communication Introduction to American Society
兼任 准教授		ヘイズ ジョージ HAYS George (40) ＜令和3年4月1日＞ 修士（教育学）
		Reading & Writing
兼任 講師		ヒューズ デボン HUGHES Devon (33) ＜令和4年4月1日＞ Masters of Linguistics
		Oral Communication
兼任 講師		清水 良一 (55) ＜令和3年4月1日＞ 修士（声学）
		芸術論
兼任 講師		亀田 洋二 (58) ＜令和3年4月1日＞ 芸術修士
		芸術論
兼任 講師		大塚 敬子 (52) ＜令和3年4月1日＞ 修士（法学）
		法学
兼任 講師		横 裕輔 (50) ＜令和3年4月1日＞ 修士（法学）
		憲法
兼任 講師		宇根 優子 (47) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		心理学概論
兼任 講師		網野 友雄 (41) ＜令和3年4月1日＞ 修士（コーチング学）
		健康・スポーツ実技

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		澤田 孝史 (62) ＜令和5年4月1日＞ 修士（文学）
		Reading & Writing
兼任 講師		ジョーンズ トレーシー JONES Tracy (46) ＜令和5年4月1日＞ 修士（TESOL with Distinction）
		Oral Communication
兼任 講師		コプズ アイダ CORPUZ Aida (51) ＜令和5年4月1日＞ Bachelor of Science: Secondary Education: English Language Arts
		Introduction to American Society
兼任 准教授		安岡 真 (66) ＜令和5年4月1日＞ 学士（社会学）
		Reading & Writing
兼任 講師		ファウラー キャサリン FOWLER Catherine (35) ＜令和5年4月1日＞ M.A. T.E.S.O.L.
		Oral Communication
兼任 講師		サンチェス ベッキー SANCHEZ Becky (36) ＜令和5年4月1日＞ Bachelor of Arts in English Linguistics TEFL and Spanish Linguistics
		Oral Communication
兼任 講師		清水 良一 (56) ＜令和3年4月1日＞ 修士（声学）
		芸術論
兼任 講師		亀田 洋二 (59) ＜令和3年4月1日＞ 芸術修士
		芸術論
兼任 講師		横 裕輔 (51) ＜令和3年4月1日＞ 修士（法学）
		憲法
兼任 講師		宇根 優子 (48) ＜令和3年4月1日＞ 修士（文学）
		心理学概論
兼任 講師		網野 友雄 (42) ＜令和3年4月1日＞ 修士（コーチング学）
		健康・スポーツ実技

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・神戸晃男准教授を追加。令和3年1月AC教員審査済。
- ・米澤美園専任講師の担当科目に神経・筋疾患理学療法学を追加。令和3年1月AC教員審査済。
- ・平山教授より、上野教授へ変更。年度での担当制科目となり、今年度は上野教授の担当となる。
- ・浮田教授より、平山教授へ変更。年度での担当制科目となり、今年度は平山教授の担当となる。
- ・フェニヤート ベドロ講師担当のIntroduction to American Societyは履修者の減少により今年度は開講せず。
- ・スキャヴォネ スカイラ ヴィンセント講師より、ミューラー ケビン教授へ変更。
- ・アビゲイル キャリガン講師より、ヘイズ ジョージ准教授へ変更。
- ・フィリップ ジョンソン講師については、履修予定者数を考慮し、担当せず。

【令和4年度】

- ・柄本 三代子教授の社会学、現代の社会は、海外研修で不在のため今年度は開講せず。
- ・筑井 麻紀子教授の担当科目を1科目追加。
- ・服部 泰造准教授より、斐品 正照教授へ変更。
- ・Introduction to American Societyの担当をミンチェーロ ジョージ講師とした。
- ・ミューラー ケビン教授の2科目のうち1科目を、ミンチェーロ ジョージ講師へ変更。
- ・ヘイズ ジョージ准教授の2科目のうち1科目を、ヒューズ デボン 講師へ変更。
- ・大原 恵次講師より、久野 道広講師へ変更。
- ・一寸木 洋平講師の職位を昇格によって准教授へ変更。令和4年2月AC教員審査済。

【令和5年度】

- ・芝原 美由紀講師が退職。
- ・それに伴い、正木 光裕講師を兼任教員として新たに任用。小児理学療法学、心身機能発達学の担当とした。
- ・※芝原講師のその他担当科目の補充等については、『(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」』に詳細を記載。
- ・ICT基礎等の担当を上野 博教授から小室 広佐子教授へ変更。※年度での担当制科目であり、今年度は小室 広佐子教授の担当。
- ・高田 知和教授の社会学は、国内研修で不在のため今年度は開講せず。
- ・地域の安全と警察の担当を平山 龍水教授から三宅 紀子教授へ変更。※年度での担当制科目であり、今年度は三宅 紀子教授の担当。
- ・岩田 真一准教授が退職。
- ・Reading & Writingの担当を澤田 孝史教授、安岡 真准教授とした。
- ・Oral Communicationの担当をジョーンズ トレーシー講師、ファウラー キャサリン講師、サンチェス ベッキー講師とした。
- ・Introduction to American Societyの担当をコープズ アイダ講師とした。
- ・大塚 敬子講師が退職。
- ・観光まちおこしワークショップ実践Bの担当を前 好光講師から久野 道広講師へ変更。
- ・観光まちおこしワークショップ実践Cの担当を久野 道広講師から前 好光講師へ変更。
- ・観光まちおこしプロジェクトCの担当を、宮口 直人講師から富澤 美津男講師へ変更。
- ・公衆衛生学の担当を伊藤 久美子講師から杉森 裕樹講師へ変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2) - ② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数
14	7
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
8	7	6	—	21	—	7	9	4	—	20	—
(7)	(8)	(6)	(—)	(21)	(—)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
7	9	4	—	20	—	7	9	5	—	21	—
[Δ1]	[2]	[Δ2]	(—)	[Δ1]	(—)	[Δ1]	[2]	[Δ1]	(—)	(—)	(—)

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
70	1	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{20}{21} = \boxed{95.23} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{20} = \boxed{5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番	号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由					
合計（D）							後任補充状況の集計（E）						
就任を辞退した教員数		担当科目数目の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目			
		選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目			
		自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目			
		計	0	科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目			

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	講師	芝原 美由紀	R5.3	必修	心身機能発達学	②	令和5年3月 一身上の都合により辞任（5）						
				必修	基礎理学療法学演習Ⅰ	①							
				必修	基礎理学療法学演習Ⅱ	①							
				必修	生体観察と触診法	①							
				必修	理学療法学特論	③							
				必修	義肢装具学	③							
				必修	義肢装具学演習	③							
				必修	小児理学療法学	②							
				必修	理学療法学演習Ⅰ	①							
				必修	理学療法学演習Ⅱ	①							
				必修	理学療法学演習Ⅲ	①							
				必修	機能・能力評価学臨床実習	①							
				必修	総合臨床実習Ⅰ	①							
				必修	総合臨床実習Ⅱ	③							
				必修	総合理学療法学	③							
必修	理学療法学研究法	①											
必修	理学療法学研究実践法	③											
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
1	人	必修	17	科目	必修	9	科目	必修	2	科目	必修	6	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	17	科目	計	9	科目	計	2	科目	計	6	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
1	人	必修	17	科目	必修	9	科目	必修	2	科目	必修	6	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	17	科目	計	9	科目	計	2	科目	計	6	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{1}{21} = 4.76\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況		辞任等の理由					
合 計						後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	0	科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「今後の方針、大学の所見」：
 芝原 美由紀講師が担当していた科目の後任について、基本的には元々芝原講師とともに当該科目を担当していた専任教員が受け持つこととする。一部科目についてはAC教員審査を受けた上で専任教員が担当、または新たに任用した兼任教員が担当することとする。

- ・ 芝原講師以外に担当していた専任教員が引き続き担当する科目
 基礎理学療法学演習Ⅰ、基礎理学療法学演習Ⅱ、生態観察と触診法、
 理学療法学演習Ⅰ、理学療法学演習Ⅱ、理学療法学演習Ⅲ、
 機能・能力評価学臨床実習、総合臨床実習Ⅰ、理学療法学研究法
- ・ 別の専任教員が担当する科目（報告時点ではAC教員審査を受審中のため、後任補充状況は③と回答）
 理学療法学特論、義肢装具学、義肢装具学演習
 ※理学療法学特論はオムニバス形式の科目であり、芝原講師が担当していた回（テーマ）を別の専任教員が担当する。
- ・ 兼任教員を新たに任用する科目
 心身機能発達学、小児理学療法学
 ※心身機能発達学は現員の専任教員も引き続き担当する。
 ※次年度以降、小児理学療法学についても担当の専任教員を配置する計画。
- ・ 配当が4年次のため、現時点で後任補充が未定の科目
 総合臨床実習Ⅱ、総合理学療法学、理学療法学研究実践法

報告時点では設置基準（14名）を大きく上回る専任教員数（20名）を擁しており、上記のように芝原講師が担当していた多くの科目は元々担当していた専任教員が引き続き担っていく。また、交代教員へは授業実施に際して事務局側から必要なサポートを提供するため、専任教員交代に伴う大きな問題は起こらないと考える。

「学生への周知方法」：
 ガイダンスでの説明、シラバスの公開、時間割の公開
 授業時（前）の専任教員による教員交代の説明、教員紹介を実施

- (注) ・ 上記（3）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和2年)	病院のみならず、卒業後の進路として掲げられた、スポーツトレーニング施設、行政機関、健康関連企業等への就職が可能となるよう就職支援の方策を説明すること。	【認可】 遵守事項 本学医療健康学部理学療法学科において所定の科目を履修することで、卒業時に初級障がい者スポーツ指導員資格及びトレーニング指導者受験資格が得られるように、各民間団体に対して、養成機関の認定に関する手続きを進めてきた。トレーニング指導者資格については、2020年12月に特定営利活動法人日本トレーニング指導者協会より養成校の認定を受けた。初級障がい者スポーツ指導員資格については、関連する科目（4年次秋学期「障がい者スポーツ支援論」）が始まる令和6年度に養成校としての認定を受けられるように調整している。また社会福祉主事任用資格についても、所定の必修科目の単位を修得し、行政機関等に就職することで任用資格が得られるようにしている。これらの資格取得により、卒業後にスポーツトレーニング施設や行政機関等で働くために必要な知識を修得できるように、準備を進めている。 2022年度からスポーツ分野を志す2年生に向けて、教育課程外での実技指導を定期的に行っている。卒業後、スポーツ分野で即戦力になるような技術を修得させる予定である。（4） 本学医療健康学部理学療法学科において所定の科目を履修することで、卒業時に初級障がい者スポーツ指導員資格及びトレーニング指導者受験資格が得られるように、各民間団体に対して、養成機関の認定に関する手続きを進めてきた。トレーニング指導者資格については、2020年12月に特定営利活動法人日本トレーニング指導者協会より養成校の認定を受けた。初級障がい者スポーツ指導員資格については、関連する科目（4年次秋学期「障がい者スポーツ支援論」）が始まる令和6年度に養成校としての認定を受けられるように調整している。また社会福祉主事任用資格についても、所定の必修科目の単位を修得し、行政機関等に就職することで任用資格が得られるようにしている。これらの資格取得により、卒業後にスポーツトレーニング施設や行政機関等で働くために必要な知識を修得できるように、準備を進めている。 2022年度秋学期では、「理学療法学特論」の授業内で、「スポーツ理学療法」、「予防理学療法」、「臨床理学療法」の各分野に関する講義をオムニバス方式で実施した。第7回の講義においては、各学生について、5年後、10年後、20年後のキャリア・デザインを考えさせた。また、2023年度春学期からは、「理学療法文献講読」、「健康増進と疾病予防」や「スポーツ理学療法学」などのスポーツ・予防・臨床理学療法に関する選択科目が始まった。各分野で活躍するための知識・技術の修得を目指すとともに、卒後の進路を学生主体で考えさせる取り組みを進めている。（5）	本学では既に人間社会学部人間スポーツ学科及びスポーツ科学科の2学科において、健康関連企業、スポーツトレーニング施設、行政機関への就職を支援してきた実績がある。スポーツ系2学科で蓄積されたデータを活用することによって、病院以外の就職を希望する学生の就職を支援することが可能であると考えられる。今後、スポーツ系2学科を担当する第2キャンパスのキャリアセンターと密に連携を取り、病院以外への就職を支援する予定である。計画としては、就職先を具体的に考え始める3年次までには、キャリアセンターによる就職セミナーを複数回開催する予定である。また各学生に対して専任教員が個別面談を実施することで、就職活動を支援していく予定である。（4） 本学では既に人間社会学部人間スポーツ学科及びスポーツ科学科の2学科において、健康関連企業、スポーツトレーニング施設、行政機関への就職を支援してきた実績がある。スポーツ系2学科で蓄積されたデータを活用することによって、病院以外の就職を希望する学生の就職を支援することが可能であると考えられる。今後、スポーツ系2学科を担当する第2キャンパスのキャリアセンターと密に連携を取り、病院以外への就職を支援する予定である。2022年度末においては、キャリアセンターによる就職セミナーが開催され、理学療法学科新3年生に対しても開催に関する情報を周知した。2023年度からは、学部運営主任の中に、就職支援の担当者を選任した。就職支援担当教員を中心に、学生の就職活動を支援していく予定である。（5）
認 可 時 (令和2年)	「総合臨床実習Ⅰ」と「同Ⅱ」において実施する地域理学療法に関する実地体験について、実習施設を適切に確保するとともに、計画に基づいて確実に履行すること。	【認可】 遵守事項 2021年4月に臨床実習に関連した業務を担当する教職員（学部運営主任、学年担任・副担任、教務課職員）が決まった。2022年度も担当教職員が継続して業務を担当することになった。「機能・能力評価学臨床実習」「総合臨床実習Ⅰ」「総合臨床実習Ⅱ」に向けて、学部運営主任（臨床実習担当教員）を中心に引き続きチェック体制と連携体制の調整を行っているところである。（4）（5）	実習施設に対する実習依頼発送時に地域理学療法の体験が可能か否かを調査し、地域理学療法に関する実地体験を行える施設を確保する。臨床実習の配置状況を2名以上で、複数回チェックできる体制を整え、計画通りに、全ての学生が地域理学療法に関する実地体験を確実にできるようにしていく予定である。（4）（5）

認 可 時 (令和2年)	「東京国際大学学術研究倫理委員会規程」について、外部委員の属性や人数が不明確であることから、学術研究倫理委員会規程を明確に修正すること。	【認可】 遵守事項	「WMAヘルシンキ宣言-人を対象とする医学研究の倫理諸原則」および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(文部科学省・厚生労働省・経済産業省)を踏まえ、「東京国際大学 人を対象とする医学系研究倫理審査規程(2021年4月1日施行)」を制定済み。(4)(5)	履行済	
認 可 時 (令和2年)	教員の補充を必要とされた12科目については、科目開講時まで確実に専任教員を配置して教員を充足すること。	【認可】 遵守事項	令和3年1月のAC教員審査において、准教授1名の追加、専任講師の担当科目の追加を審査済み。審査の結果、当該12科目全てに対応済み。(4)(5)	履行済	

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)(5)」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医療健康学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど																								
■学生の実習参加基準・要件 10.1.5. 学生の実習参加基準・要件等 学生の実習参加基準・要件は、臨床実習前に配当されている必修科目及び選択必修科目を修得していることとする。具体的な要件は、以下の表 17 の通りとする。 表 17. 学生の実習参加基準・要件 <table><tr><th>科目名</th><th>実習時期</th><th>実習参加基準・要件</th></tr><tr><td>機能・能力評価学臨床実習</td><td>2 年後期</td><td>2 年前期までの必修科目と選択科目（基礎教育分野から 4 単位以上）の単位を修得しており、2 年後期の必修科目と選択科目（理学療法特論 1 単位）の単位が修得見込みであること。</td></tr><tr><td>総合臨床実習Ⅰ</td><td>3 年後期</td><td>3 年前期までの必修科目と選択科目（基礎教育分野から 4 単位以上、専門教育分野から 3 単位）の単位を修得しており、3 年後期（集中講義を除く）の必修科目と選択科目（専門教育分野から 2 単位）の単位が修得見込みであること。</td></tr><tr><td>総合臨床実習Ⅱ</td><td>4 年前期</td><td>3 年後期までの必修科目及び選択科目（基礎教育分野から 4 単位以上、専門教育分野から 5 単位）の単位を修得していること。</td></tr></table> ※設置の趣旨等を記載した書類 （医療健康学部理学療法学科） 東京国際大学 52頁	科目名	実習時期	実習参加基準・要件	機能・能力評価学臨床実習	2 年後期	2 年前期までの必修科目と選択科目（基礎教育分野から 4 単位以上）の単位を修得しており、2 年後期の必修科目と選択科目（理学療法特論 1 単位）の単位が修得見込みであること。	総合臨床実習Ⅰ	3 年後期	3 年前期までの必修科目と選択科目（基礎教育分野から 4 単位以上、専門教育分野から 3 単位）の単位を修得しており、3 年後期（集中講義を除く）の必修科目と選択科目（専門教育分野から 2 単位）の単位が修得見込みであること。	総合臨床実習Ⅱ	4 年前期	3 年後期までの必修科目及び選択科目（基礎教育分野から 4 単位以上、専門教育分野から 5 単位）の単位を修得していること。	基礎教育分野科目カリキュラムの兼ね合いにより、「機能・能力評価学臨床実習」、「総合臨床実習Ⅰ」「総合臨床実習Ⅱ」の実習参加基準・要件（先修条件）を下記の通り変更。 ※2023年2月3日 東京国際大学常務会 審議事項（承認） 変更後の実習参加基準・要件 <table><tr><th>科目名</th><th>実習時期</th><th>実習参加基準・要件</th></tr><tr><td>機能・能力評価学臨床実習</td><td>2 年後期</td><td>2 年前期までの専門教育分野必修科目の単位を修得しており、2 年後期の必修科目の単位が修得見込みであること。</td></tr><tr><td>総合臨床実習Ⅰ</td><td>3 年後期</td><td>3 年前期までの専門教育分野の必修科目及び、3 年前期の選択科目2 単位以上を修得しており、3 年後期（集中講義を除く）の専門教育分野の必修科目及び選択科目 2 単位以上の単位が修得見込みであること。</td></tr><tr><td>総合臨床実習Ⅱ</td><td>4 年前期</td><td>3 年後期までの専門教育分野の必修科目及び選択科目 4 単位以上の単位を修得していること。</td></tr></table>	科目名	実習時期	実習参加基準・要件	機能・能力評価学臨床実習	2 年後期	2 年前期までの専門教育分野必修科目の単位を修得しており、 2 年後期の必修科目の単位が修得見込みであること。	総合臨床実習Ⅰ	3 年後期	3 年前期までの専門教育分野の必修科目及び、3 年前期の選択科目 2 単位以上を修得しており、3 年後期（集中講義を除く）の専門教育分野の必修科目及び選択科目 2 単位以上の単位が修得見込みであること。	総合臨床実習Ⅱ	4 年前期	3 年後期までの専門教育分野の必修科目及び選択科目 4 単位以上の単位を修得していること。
科目名	実習時期	実習参加基準・要件																							
機能・能力評価学臨床実習	2 年後期	2 年前期までの必修科目と選択科目（基礎教育分野から 4 単位以上）の単位を修得しており、2 年後期の必修科目と選択科目（理学療法特論 1 単位）の単位が修得見込みであること。																							
総合臨床実習Ⅰ	3 年後期	3 年前期までの必修科目と選択科目（基礎教育分野から 4 単位以上、専門教育分野から 3 単位）の単位を修得しており、3 年後期（集中講義を除く）の必修科目と選択科目（専門教育分野から 2 単位）の単位が修得見込みであること。																							
総合臨床実習Ⅱ	4 年前期	3 年後期までの必修科目及び選択科目（基礎教育分野から 4 単位以上、専門教育分野から 5 単位）の単位を修得していること。																							
科目名	実習時期	実習参加基準・要件																							
機能・能力評価学臨床実習	2 年後期	2 年前期までの専門教育分野必修科目の単位を修得しており、 2 年後期の必修科目の単位が修得見込みであること。																							
総合臨床実習Ⅰ	3 年後期	3 年前期までの専門教育分野の必修科目及び、3 年前期の選択科目 2 単位以上を修得しており、3 年後期（集中講義を除く）の専門教育分野の必修科目及び選択科目 2 単位以上の単位が修得見込みであること。																							
総合臨床実習Ⅱ	4 年前期	3 年後期までの専門教育分野の必修科目及び選択科目 4 単位以上の単位を修得していること。																							

(注) ・ 1～6 の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

機能別教授会(資料1参照)の1つとしてFD委員会を設置している。委員長は副学長のうち1名が担当する。本学での委員会の位置づけは「教員能力の開発に関する事項」となっているため、以下に記載する通り審議事項は教育に限定されていない。

また、2021年度よりSDについても事務局と連携して積極的に取り組んでいる。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

年2~4回程度:特段の理由がない限り欠席者無し

※大学論叢・大学院紀要の発行については、別に作業部会があり、必要に応じて実施

c 委員会の審議事項等

全学FD研修会の開催

学部FD実施状況の把握

授業評価アンケート実施

特別研究助成申請/図書出版補助申請の審査

大学論叢・大学院紀要の発行

FDニューズレターの発行 等

② 実施状況

a 実施内容

・全学FD研修会について、2022年度は「ディプロマポリシーの改定と修得状況の評価」をテーマに実施し、改定したDP内容の周知および学修成果の可視化にあたっての課題を議論した。

・学部FDとして、医療健康学部では2022年度にFD研修会を2回実施した。

1回目(春学期)は「臨床実習教育における教員の役割と関わり方」と題して、臨床実習の進め方や実習教育の方法について教員間での共通認識・理解を図った。

2回目(秋学期)は教師としてのスキル向上を目指すため、「ポストコロナ時代の新しいストレスチェックを創る試み」をテーマに実施した。

・SDについては、2022年度は全教職員を対象にアカデミックハラスメント対策研修をeラーニングにて実施した。

b 実施方法

・2020年度から実施されたZoom開催が定着し、2022年度についても、ほとんどがZoomでの開催となった。

全学FD研修会については、録画を行って欠席者に視聴するよう促し、できるだけ多くの教員が受講できるよう取組を行った。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

・全学FDのほか、組織別のFD研修会を開催し、2022年度は全学部合計で24回の開催があった。専任教員の90%がいずれかの研修会に参加した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・多くの学部で、新入生向けの初年次演習をテーマにFD研修会を実施することで、新入生の意識や傾向の理解、効果的な授業運営の方法を教員間で共有することができた。得られた知見は各教員が次年度以降の授業改善に役立て、初年次演習で学ぶ基礎的学修スキルの修得のみならず、修学意欲の維持・向上にもつながると考える。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

(1)実施:有 *原則として学部・大学院の開講科目すべてを対象として実施。

(2)実施時期:春学期(7月)、秋学期(12月)

b 教員や学生への公開状況、方法等

集計結果および、授業について教員からの振り返り資料を学内ポータルで学生・教員に公開している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

資料2 参照

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 2018年4月公表 2016(平成28)年度東京国際大学自己点検・評価報告書(2017年度大学評価申請用報告書)
- ・ 2023年6月公表 2022(令和4)年度自己点検・評価報告書(学内実施)

b 公表方法

- ・ 大学ホームページ上に公開
<https://www.tiu.ac.jp/about/>

③ 認証評価を受ける計画

(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)

- ・ 平成29(2017)年度に評価機関(大学基準協会)の認証評価を受審し、2018年4月1日より2025年3月末日までの適合認定を得た。
- ・ 次回は令和6年(2024)年度に評価機関(大学基準協会)の認証評価を受審予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和5年度)

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表(予定)時期 [☒ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☐ 公表後2～3ヶ月以内 ・ ☐ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ ☐ その他()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

○東京国際大学機能別教授会規程

2017 年 5 月 25 日 制定

最近改正 2022 年 5 月 27 日

(目的)

第1条 この規程は東京国際大学教授会設置規程に基づき、機能別教授会の組織及び運営について定めることを目的とする。

(意見具申)

第2条 次の機能別教授会（以下「各教授会」という。）は、次の項目について学長に意見を具申する。

- ・就学管理委員会
～学生の入学，卒業，課程の修了，学位の授与及び懲戒に関する事項
- ・カリキュラム編成委員会
～カリキュラム編成に関する事項
- ・グローバル化推進委員会
～グローバル化推進に資する諸施策の企画立案に関する事項
- ・FD 委員会
～教員の能力開発に関する事項，論叢紀要編集を含む
- ・CD 委員会
～学生の進路指導・支援に関する事項
- ・全学人事委員会
～教員の人事に関する事項（国際戦略研究所所属教員を除く）
- ・国際戦略研究所人事委員会
～国際戦略研究所所属教員の人事に関する事項
- ・イングリッシュ・トラック・プログラム運営機構
～イングリッシュ・トラック・プログラムの運営に関する事項
- ・自己点検・評価委員会
～自己点検・評価及び内部質保証の推進に関する事項

(委員の任命，解任)

第3条 各教授会の委員は，教職員他の中から常務会の議を経て理事長が任命，解任する。

(委員長及び副委員長)

第4条 各教授会に委員長を置き，必要に応じ，委員長を補佐する副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は，各委員会の委員の中から，常務会の議を経て理事長が任ずる。

(招集)

第5条 各委員会は委員長が招集し，その議長となる。

- 2 委員長に事故あるときは，副委員長が代行する。副委員長に事故あるとき又は副委

員長を置かない委員会にあつては、委員長の指名した者が議長となる。

(任期)

第6条 各委員会の委員の任期は、1年とする。なお、第3条において特定の職に在職することを以て委員に選任された場合、当該職を退いたときには委員を退任するものとする。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、理事会の議を経て、理事長がこれを行う。

附 則

この規程は、2017年5月25日から施行する。

附 則

この改正規程は、2019年11月1日から施行する。

附 則

この改正規程は、2021年4月1日から施行する。

附 則

この改正規程は、2021年4月1日から施行する。

附 則

この改正規程は、2022年4月1日から施行する。

医療健康学部理学療法学科の設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

東京国際大学では、全学部を挙げて現代社会のニーズに応じた人材の養成に取り組んできたが、「少子高齢化の進展」に伴う日本社会の変化（医療・介護需要増大とそれによる健康増進・介護予防分野の重要性増大）に対応すべく、今般、既存の 5 学部に加えて、新たに「医療健康学部」を設置した。当該学部においては、本学の建学の精神及び教育理念の下に、医療・健康科学における専門的知識・技術をもって心身の健康を支援することで社会に貢献できる人材を養成することを教育目的としている。特に当該学部の「理学療法学科」は、現代社会の問題を理学療法の視点から捉え、医療・福祉分野のみならず、健康増進・介護予防分野においても活躍できる人材を養成することを教育目的としている。

医療健康学部理学療法学科は、2021 年 4 月に開設した。本報告書においては、設置の趣旨・目的の達成に向けた本学の具体的な取り組みの現状について報告することとする。

1. 入学試験の実施

医療健康学部理学療法学科では、教育目的を達成するために以下のアドミッション・ポリシーを定めている。

医療健康学部理学療法学科のアドミッション・ポリシー（AP）

大学の建学の精神と教育理念および本学部・学科の教育方針に賛同し、次の素養と意欲をもつ学生を求めます。

1. 大学での学修および活動に積極的に取り組む意欲と行動力を有する。
2. 高校での授業および活動などを通じて、基礎的な学力と基本的な学修態度を身につけている。
3. 健康・医療に興味関心があり、他者への慈しみの心を持って社会に貢献する意欲を有する。
4. 理学療法士を目指し、専門知識や技術を学ぶ意欲を持ち、そのための努力をすることができる。

上記の AP に基づき、学校推薦型選抜、一般選抜、総合型選抜を実施した。入学者選抜の実施方法としては、申請時の計画に基づき、書類審査（調査書、志望理由書）、あるいは基礎学力を確認するための筆記試験を行った。また全ての入学者選抜試験において面接試験を実施した。面接試験では、理学療法士としての基本的な資質（コミュニケーション能力、学習意欲等）を評価した。2022 年度は 81 名、2023 年度は 79 名の学生を理学療法学科に迎えることができた。

2021 年度および 2022 年度入学者に対しては、理学療法学を学ぶ上で重要となる「高校生物」「高校物理」「高校化学」の知識を確認するための Web アンケートを入学前に実施し、高校での学習状況の把握に努めた。上記内容に加えて 2022 年度入学者への取り組みとしては、基礎医学担当の教員が、学修管理システム Moodle を用いて、入学前の学生と連絡を取り、入学前の準備学習についての入学前教育を行った。入学者の学習状況に基づき、1 年次の基礎医学の教育内容及び難易度の見直しを行った。2023 年度入学者への取り

組みとしては、2021 年度および 2022 年度入学者の大学での学修状況を踏まえて、「生理学」の基礎をなす「生物基礎」・「生物」を重点的に強化できるように入学前の教育内容の改善を図った。

2. 学生への教育理念と教育課程の周知徹底

本学では、先述した教育目的を達成するために、カリキュラム・ポリシー（CP）を定め、その上で、体系的な教育課程を編成している。

医療健康学部理学療法学科カリキュラム・ポリシー（CP）

1. 基礎教育分野において、良好な人間関係構築に必要な基礎理論を修得した上で、少人数制の演習授業を通じて、人々に対して思いやりをもって接することができるようにする。
2. 基礎教育分野及び専門教育分野の講義科目で、医療倫理及び理学療法倫理を学び、臨床実習科目で倫理原則の遵守を実践することで、理学療法士に求められる高い倫理観と道徳観を身につけられるようにする。
3. 臨床実習科目において、理学療法を必要としている人々を身体・心理・社会的立場・人格などあらゆる角度から理解できるようにする。
4. 専門教育分野において、科学的根拠に基づく理学療法の実施に必要な知識・技能を修得できるようにする。
5. 統計学や研究法に関する科目、少人数制の演習科目を通じて、専門職の生涯 学習に必要な基本的な学修スキルおよび意欲・態度を身につけられるようにする。
6. 理学療法士に求められる役割や知識・技術の変化に対応するために、近年ニーズが高まっている臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法に関する選択科目を設ける。

学生に対して、①入学前、②入学オリエンテーション、③基礎理学療法学演習Ⅰ第1回目で、医療健康学部理学療法学科の教育課程の内容について説明した。上記のCP6にある「臨床理学療法」、「スポーツ理学療法」、「予防理学療法」から構成される履修モデルについては、本学の教育課程で特に重要な部分であるため、複数回説明を行った。「基礎理学療法学演習Ⅰ」、「基礎理学療法学演習Ⅱ」の授業においても、大学での学修計画やキャリアデザインについて指導してした。

2021 年度春学期から理学療法学を学ぶ上での基礎となる「解剖学Ⅰ」、「生理学Ⅰ」、「解剖学実習Ⅰ」などの授業を開始した。入学オリエンテーションにおいて、専門基礎科目と専門科目の関係性について学生に伝え、1 年次から意欲的に学修するように促している。講義では、学生の主体的な学びを引き出すため、インタラクティブな授業を展開している。また、Moodle と呼ばれる学修管理システムを積極的に活用し、学修の習慣化を促している。

2022 年度からは、2 年次科目として「医学一般Ⅰ・Ⅱ」、「精神医学」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」などの臨床医学に関する授業が開始した。さらに、「運動器理学療法学Ⅰ」や「神経理学療法学Ⅰ」などの理学療法学に関する授業も開始した。各セメスターの開始前に、学年別のオリエンテーションを実施しており、各授業の目的、意義、臨床実習に関する説明を

行った。

3. 学内教職員の共通理解の徹底

理学療法学科設置以降、学部会議、学部運営会議、理学療法士教員のための会議（プロパー会議）を頻回に実施していることにより、教員間の連携を取れた上で、授業を行っている。学部運営委員やアドミッション担当者等の役職者を中心に、臨床実習、入試関連業務、国家試験対策などの準備を進めている。

4. 感染拡大予防策の実施

医療健康学部理学療法学科では、教育効果を考え、感染症予防策を講じた上で、対面授業の形式で授業を行っている。具体的な感染予防策としては、正門でのサーモグラフィーによる検温を行い、感染の疑いのある学生の入構を防いでいる。また入構情報についても記録を行い、万が一感染者が出た場合に早期に対応できるようにしている。「解剖学実習Ⅰ・Ⅱ」、「生理学実習」「生体観察と触診法」、「機能・能力評価学実習Ⅰ・Ⅱ」、「運動学実習」などの実習科目においては学生同士の感染リスクが高まるため、「医療健康学部実習科目実施ガイドライン」を作成し、ガイドラインに基づき、実習を行っている。学生から、症状の有無の確認、マスクの着用、ディスカッション時のフェイスシールド着用、アルコールによる手消毒などを徹底させている。

本学では、感染拡大に備え、オンライン会議システム（ZOOM）や、オンデマンド動画配信システムを整備しており、万が一、感染者が出た場合でも非対面で教育を継続できるように環境構築を進めている。

2022年度の臨床実習指導者会議では、対面とZOOMを併用したハイブリット方式で実施し、臨床実習施設の状況に応じて、参加方法を選択できるようにした。

2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行するが、本学の規定に基づき、日常的予防対策の継続、罹患時の出勤・出席停止の徹底による感染拡大防止に努める。

5. 臨床見学について

2021年度の「基礎理学療法学演習Ⅰ」において、6月から医療施設を中心に臨床見学を行う予定であったが、主な臨床見学協力施設がある関東周辺では感染状況の好転が見られなかったことから2021年度の臨床見学は中止とし、本来見学に行く予定であった6コマ分を利用して学内において臨床現場で撮影したりハビリテーションの実際等についてのビデオを用いて教員が解説することで臨床見学代替の一部とした。さらに、客観的臨床能力試験に用いるビデオを教材として活用し、実際の臨床における患者との対応などについて学ばせた。加えて、主たる実習施設としてご協力いただいている戸田中央メディカルケアグループ（TMG）から臨床の理学療法士にゲストスピーカーとして来ていただいて理学療法士の仕事についてと学生の心構えについて臨床現場と中継をしながら講義をしていただいた。これらを行ったことで、本来の臨床見学の目的を概ね達成できたと考えている。

2022年度についても臨床見学協力施設が十分に得られなかったため、学内において臨床見学の代替プログラムを実施することとした。

2023年5月現在、2023年度の臨床見学の協力施設が確保できたため、学外の施設にお

いて、臨床見学を実施する予定である。

6. 機能・能力評価学臨床実習について

2022 年度の「機能・能力評価学臨床実習」において、2023 年 1 月末から医療施設を中心に、2 年生が学外で臨床実習を行った。学外実習前の 1 週間は、必要な知識の再確認や客観的臨床能力試験（OSCE）を実施した。臨床実習施設との密な連携を図り、学生が有意義な実習を行えるように対応した。入学後、最初の学外施設での実習により、「認知領域」・「精神運動領域」のみならず、「情意領域」の向上が、多くの学生で見られた。

2023 年度秋学期においては、「総合臨床実習Ⅰ」が開始するため、臨床実習担当教員・科目担当教員・教務課職員が中心となり、準備を進めているところである。

以上のように、設置の趣旨・目的の達成に向けて、教職員で連携を図りながら進めており、順調に教育活動を行えている。